

(仮称) 新M I C E施設整備基本計画

平成30年(2018年)5月
札幌市

目次

第1章	計画の目的、位置付け等	1
1 - 1	計画の目的及び位置付け.....	1
1 - 2	計画の構成.....	3
第2章	現状・課題	4
2 - 1	M I C Eの現状.....	4
2 - 2	札幌市のM I C E誘致推進における現状と課題.....	16
第3章	M I C E施策の方向性	20
3 - 1	M I C E市場の将来予測.....	20
3 - 2	積極的誘致戦略と基盤の強化戦略.....	20
3 - 3	M I C E誘致の目標等.....	22
3 - 4	将来予測や戦略等を踏まえた施設整備の考え方等.....	24
3 - 5	施設規模の検討.....	25
3 - 6	施設の望ましい規模.....	27
第4章	整備場所の検討	28
4 - 1	比較検討する整備候補地.....	28
4 - 2	各整備候補地の札幌市における位置付け.....	29
4 - 3	各整備候補地の状況比較.....	31
4 - 4	整備場所の決定.....	41
第5章	施設のコンセプト等	42
5 - 1	施設のコンセプト.....	42
5 - 2	施設の整備方針.....	42
第6章	施設計画	43
6 - 1	配置計画.....	43
6 - 2	諸室整備計画.....	44
6 - 3	平面計画イメージ.....	46
第7章	事業計画	49
7 - 1	事業手法の検討及び概算事業費.....	49
7 - 2	事業スケジュール.....	50
7 - 3	市内他施設の利用状況と棲み分け.....	50
7 - 4	施設開業後の需要予測と想定稼働率.....	52
7 - 5	ランニングコスト.....	52
7 - 6	経済波及効果.....	53
資料編	(パブリックコメント実施結果)	54

第1章 計画の目的、位置付け等

1-1 計画の目的及び位置付け

(1) 目的

MICE[※]は、高い経済効果や国際的なブランド力の向上に繋がるものと期待されています。札幌市では、比較的早い時期から、コンベンションを始めとするMICEの誘致の取組を重ねてきました。また、平成15年（2003年）には札幌コンベンションセンターをオープンさせるなど、ソフト及びハードの両面でのMICE誘致の施策を推進してきたところです。

近年は、MICE誘致の施策について、「札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年（2013年）策定）」を始めとする各種計画に位置付けるとともに、MICE分野の個別の基本計画である「札幌MICE総合戦略」を平成27年（2015年）4月に策定しました。当該戦略においては、MICEのうち、国際会議やインセンティブツアー等を重点誘致ターゲットと定め、多様な取組を展開してきました。

これらの取組により、日本や世界の国際会議の開催件数が増加傾向にある中、札幌市における国際会議の開催件数も同様の傾向となっているほか、インセンティブツアーの支援件数も順調に伸びているなど、一定の成果を上げているところです。

しかしながら、札幌コンベンションセンターについては、高い稼働率を維持しているものの、大規模な国際会議等の誘致には、展示場が併設されていないことや立地が必ずしも良くないことなどの課題を有しています。また、これまでさっぽろ芸術文化の館と周辺施設を連携させて、特に大規模な国際会議等を開催してきましたが、そのうち、一部機能を担っていたさっぽろ芸術文化の館が平成30年（2018年）9月に閉館する予定であることなど、ハード面の課題が顕在化してきています。なお、平成30年（2018年）10月に札幌市民交流プラザが開館し、その周辺施設と連携して、一定の国際会議等を受け入れることが可能となりますが、札幌市民交流プラザやその周辺には展示場が少ないなどといった課題があります。

さらに、国内他都市においても、MICE誘致の推進を強化しているとともに、施設の整備・増設を行っているところも多く見られる状況であり、都市間競争がさらに激化しているところです。

このような状況の中で、札幌市が激しい都市間競争に打ち勝つためには、各種MICE誘致施策はもとより、大規模な国際会議等の誘致・開催が可能な、市場ニーズを捉えたより魅力的な施設を整備することが必要と考えられます。

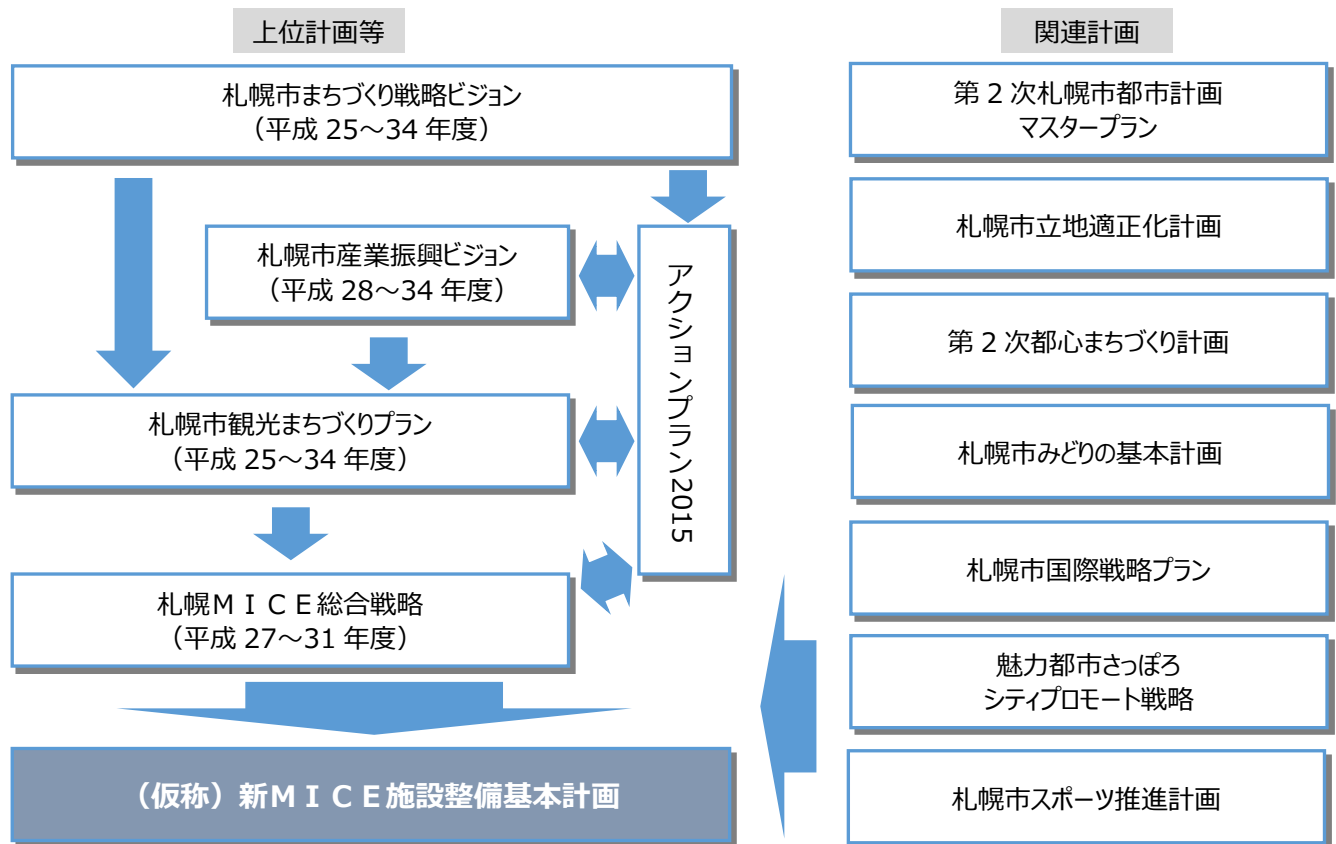
（仮称）新MICE施設整備基本計画（以下「この計画」という。）は、MICEの現状や課題等を踏まえ、新たなMICE施設（以下「新MICE施設」という。）の必要性などを整理し、新MICE施設の整備や運営に関する基本的な事項を定めることを目的とします。

なお、札幌MICE総合戦略において国際会議やインセンティブツアー等を重点誘致ターゲットとしていることを踏まえると、施設の整備にあたっては、MICEのうち、これらのターゲットが開催できることが重要です。また、国際会議については、大規模なホールや展示場を始め中小の会議室を組み合わせることで開催されることから、特に、国際会議を意識した施設整備が重要と考えられます。そのため、この計画では、主に国際会議の調査・分析等により、施設の規模や機能などを検討していくこととします。

※ MICE 多くの集客が見込めるビジネスイベントなどの総称で、Meeting（企業内会議）、Incentive travel/tour（報奨旅行）、Convention（国際会議・学術会議）、Event/Exhibition（イベント/展示会）の頭文字をとった造語。

(2) 位置付け

この計画は、札幌市のまちづくりや観光・M I C E 施策に関する上位計画に即した内容とするともに、関連計画と整合を保ちながら定めます。この計画に基づき、今後の施設整備を推進していきます。



1-2 計画の構成

第1章

計画の目的、位置付け等

計画策定の目的や位置付け等について整理します。

第2章

現状・課題

MICEの世界・国内の開催状況や国内他都市・札幌市の状況など、現状と課題を整理します。

第3章

MICE施策の方向性

MICE市場の動向を見据え、これまでの戦略を検証し、施策の方向性を整理します。

第4章

整備場所の検討

二つの整備候補地について、まちづくり上の位置付けや地区の概要等を整理し、土地利用・MICE環境・施設概要から比較を行い、整備場所を決定します。

第5章

施設のコンセプト等

前章までの内容を踏まえ、施設のコンセプトと施設の整備方針を示します。

第6章

施設計画

計画フレームや施設配置計画・諸室整備計画などの施設構成などについて整理します。

第7章

事業計画

整備手法や運営方法について整理するとともに、整備による経済波及効果を示します。

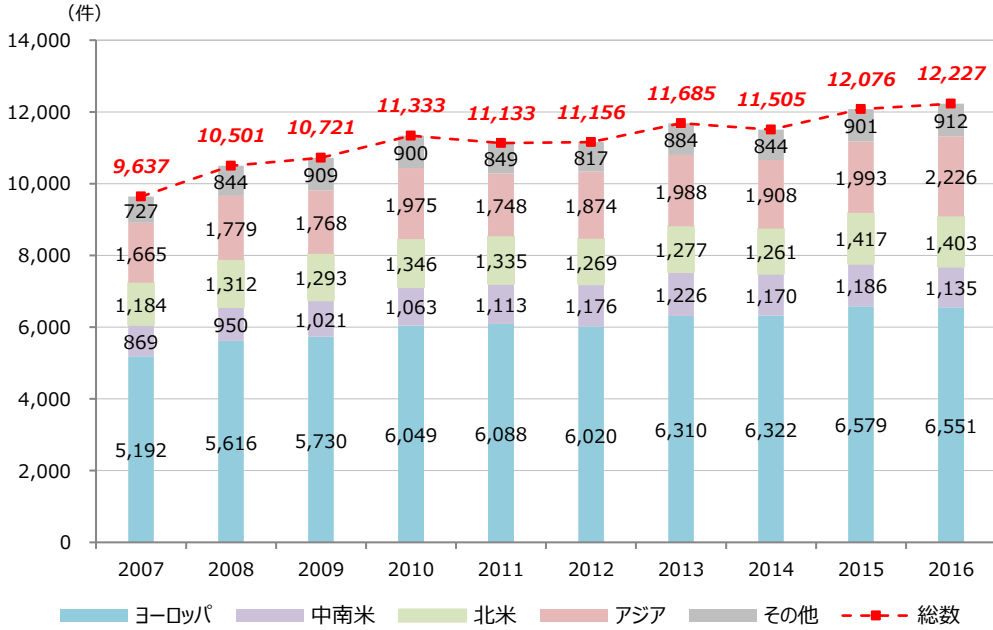
第2章 現状・課題

2-1 MICEの現状

(1) 国際会議の開催状況

① 世界の開催状況

国際会議協会（International Congress & Convention Association）（以下「ICCA」という。）が集計・発表している統計※によると、世界的な国際会議の開催状況については、開催件数が概ね増加傾向となっています。地域別では、主にヨーロッパでの開催が多い状況ですが、近年は、アジアの経済成長を背景として、アジア地域でも開催件数は増加しています。



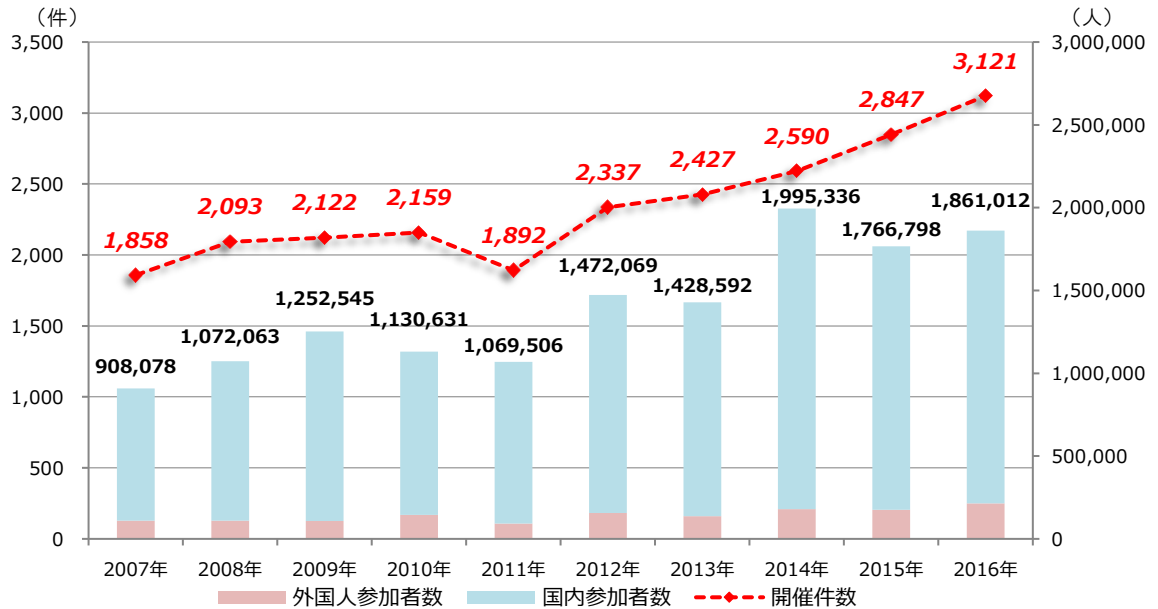
【地域別国際会議開催件数の推移（ICCA統計）】

※ 国際会議協会（ICCA）統計 ①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催し、②参加者総数が50名以上で、③定期的に開催され、④3か国以上での会議持ち回りがある会議の統計。

② 日本の開催状況

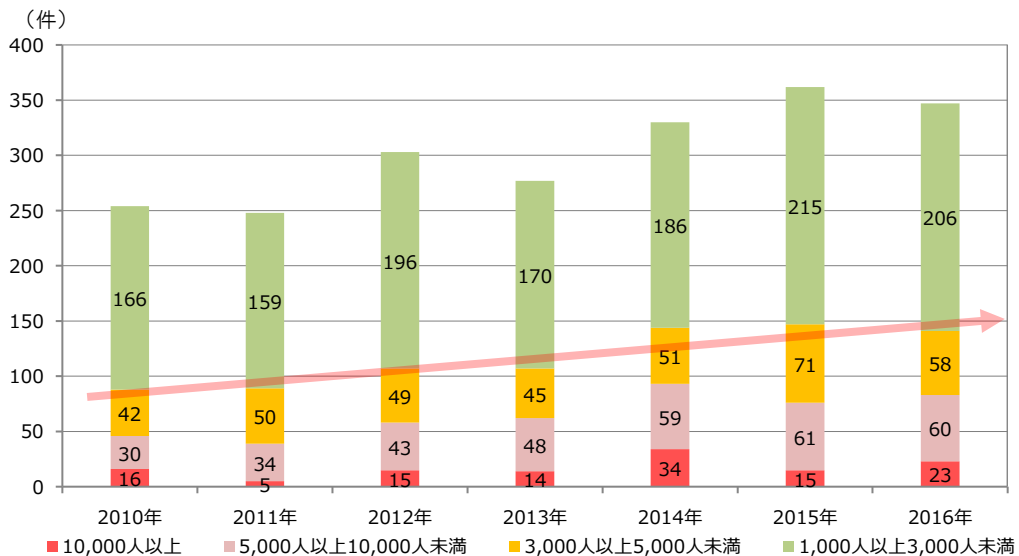
ア 国際会議

日本政府観光局（Japan National Tourism Organization）（以下「JNTO」という。）が集計・発表している統計※によると、国内の国際会議の開催状況については、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年（2011 年）に若干落ち込んだものの、開催件数、参加者数ともに概ね増加傾向にあります。



【国際会議の開催件数・参加者数の推移（2007～2016；JNTO統計）】

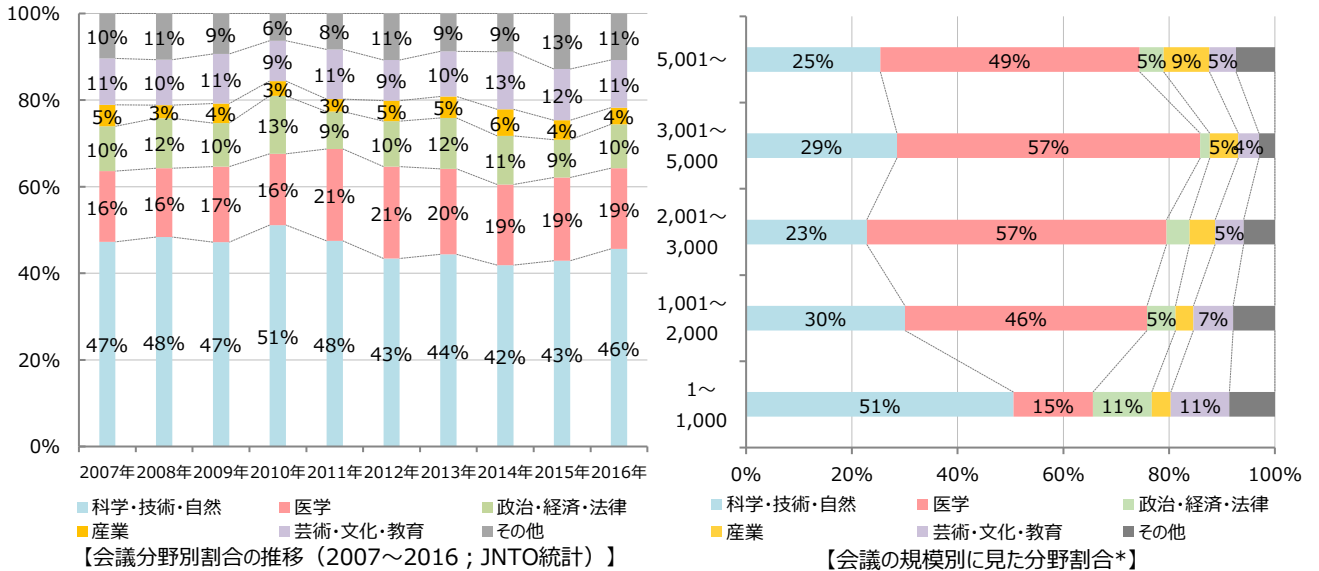
国際会議全体の開催件数は、平成 22 年（2010 年）（2,159 件）と平成 28 年（2016 年）（3,121 件）を比較すると、約 1.4 倍に増加しています。そのうち、大きな経済波及効果等が見込める、3,000 人以上の規模の国際会議開催件数は、平成 22 年（2010 年）（88 件）と平成 28 年（2016 年）（141 件）を比較すると、約 1.6 倍に増加しているなど、大規模な国際会議が特に増加傾向にあるものと考えられます。



【1,000人以上の会議開催件数（2010～2016；JNTO統計）】

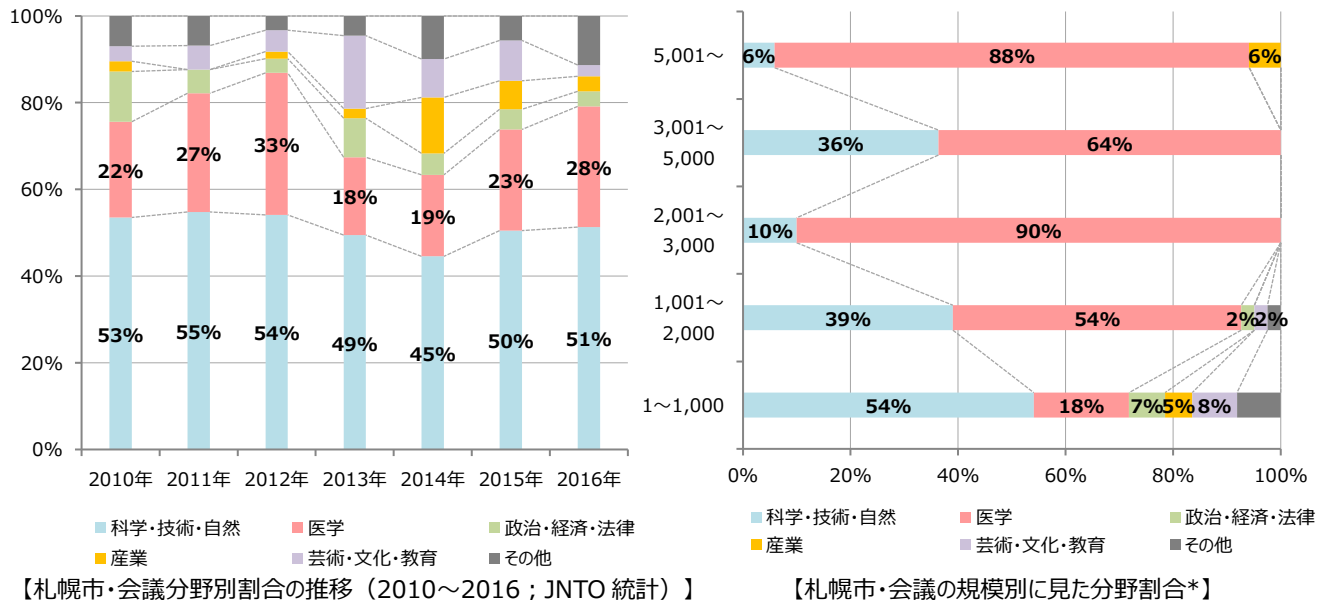
※ 日本政府観光局（JNTO）統計 ①国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体が主催し、②参加者総数が50名以上で、③日本を含む3か国以上が参加し、④開催期間が1日以上の会議の統計。

分野別では、「科学・技術・自然」分野の割合が全体の40～50%程度、「医学」が15～20%程度となっており、この二つの分野で全体の6割程度を占めています。また、「科学・技術・自然」は比較的小規模な会議が多く、「医学」は3,000人を超えるような大型国際会議の占める割合が高くなっています。



*表はJNTO国際会議統計・資料編3（2007～2016年の累計値）を基に導出した規模別割合。

札幌で開催された国際会議を分野別に見ると、「科学・技術・自然」と「医学」で合わせて70～80%程度を占めており、全国的な傾向よりも高い割合を示しています。さらに、会議の規模別に見た分野割合では、参加者2,000人超の会議では、「医学」の占める割合が高くなっています。



*表はJNTO国際会議統計・資料編3（2007～2016年の累計値）を基に導出した規模別割合。

札幌は、北海道大学や札幌医科大学を始めとした学術機関が充実しており、国際会議（学術系会議）を開催するにあたってのキーパーソン[※]となる人材も豊富であることから、「科学・技術・自然」「医学」分野の学術会議の開催にあたって大きな強みを有しています。特に北海道大学は、全国第11位の会場別国際会議開催件数（JNTO統計、平成28年度（2016年））であ

※ キーパーソン 学会等の団体において会議の開催地決定にあたっての決定権を持つ人物。

るなど、高い競争力を持っているものと考えられます。しかしながら、札幌市における大学機関との連携については、その取組に着手したところであり、他都市に比べて遅れているものと考えられることから、今後の連携の取組が重要となってきます。

また、札幌市の産業振興施策では、IT・クリエイティブ、健康福祉・医療等を重点分野に位置付けており、IT・クリエイティブの分野において札幌は全国有数の企業集積地であることや、健康福祉・医療の分野でも先進的な研究・開発に取り組む企業等が立地していることに加え、今後、両分野の関連企業の集積もさらに期待できることなどについても、「科学・技術・自然」「医学」分野の学術系会議開催にあたっての強みの一つであると言えます。

イ 国際会議以外の開催状況

国際会議以外のM I C Eについては、公的な統計等がなく、全体像が把握しづらい状況です。

そのうち「M（企業内会議）」と「I（報奨旅行）」については、観光庁が設置する「M I C E 推進関係府省連絡会議」における「関係府省M I C E 支援アクションプラン」の中間とりまとめ（平成 29 年（2017 年）7 月 21 日）において、今後の取組の基本的考え方の中で「M、I の誘致を進めるためには、日本を選択してもらうために企業内会議や報奨旅行の実施地を決定する決定権者に訴求する魅力的なメニューの開発が必要である。」とした上で、主要施策として「魅力的で多様なM I C E（特にM・I）商品開発に向けてのニーズ調査」を行うこととしています。

また、「E（イベント、展示会）」については、一般社団法人日本イベント産業振興協会が発表している国内のイベント消費規模推計によると、イベント消費の伸びが、対前年比で、平成 27 年（2015 年）は 14 兆 6353 億円（前年比 110.1%）、平成 28 年（2016 年）は 16 兆 5314 億円（前年比 112.9%）と連続して 10%を超えている状況にあります。

(2) 国内都市の状況

国内都市のうち、国際会議の開催件数が上位となっている、グローバルMICE都市※について、各都市の状況を整理します。

① 開催状況

国内の都市別国際会議の開催状況については、開催件数、参加者総数ともにグローバルMICE都市が上位を占めているとともに、増加傾向にあります。特に、平成27年（2015年）に新たな展示場を整備した仙台市については、整備以降、大幅な増加となっています。

なお、下表のとおり、東京※と横浜については、特に大規模な施設や高い需要を背景に参加者総数が突出していることから、以降の分析・検討等については、基本的に除外して考えることとします。

【グローバルMICE都市の国際会議開催件数の推移（JNTO統計）】

(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年 の順位	参考：2016ICCA	
									国内	国際
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,121			7位
東京	491	470	500	531	543	557	574	1位	1位	21位
福岡	216	221	252	253	336	363	383	2位	4位	111位
京都	155	137	196	176	202	218	278	3位	2位	44位
神戸	91	83	92	93	82	113	260	4位	5位	120位
名古屋	122	112	126	143	163	178	203	5位	8位	160位
横浜	174	169	191	226	200	190	189	6位	5位	120位
大阪	69	72	140	172	130	139	180	7位	3位	100位
仙台	72	40	81	77	80	221	115	8位	10位	203位
札幌	86	73	61	89	101	107	115	8位	7位	152位
北九州	49	38	45	57	73	86	105	10位	13位	324位
広島	25	24	37	50	50	59	76	12位	11位	279位
千葉	56	30	32	28	31	31	43	14位	15位	392位

(単位：件)

【グローバルMICE都市の国際会議参加者総数の推移（JNTO統計）】

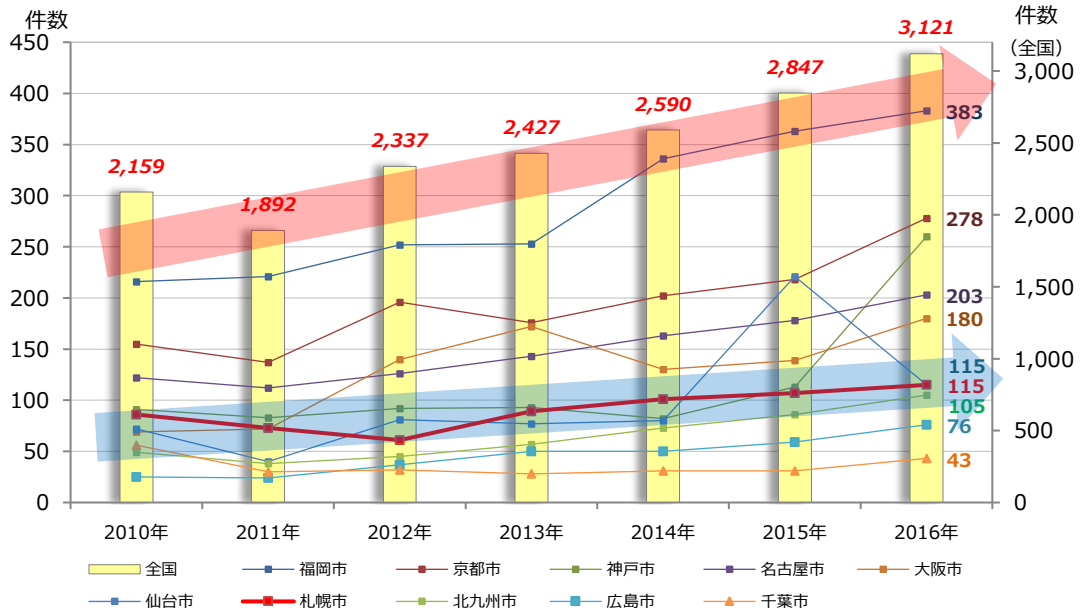
(暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016年 の順位
全国	113.1	107.0	147.2	142.9	199.5	176.7	186.1	
横浜	16.5	16.0	22.6	22.9	58.3	27.9	31.2	1位
東京	18.7	25.2	21.4	29.9	34.0	33.5	30.2	2位
京都	10.8	8.4	11.4	9.6	12.8	15.4	20.3	3位
福岡	6.5	8.9	17.1	12.0	14.0	15.8	19.4	4位
大阪	6.5	5.6	9.7	11.2	19.5	12.8	13.1	5位
神戸	9.1	4.3	12.5	4.7	10.7	10.1	10.1	6位
名古屋	7.5	11.2	12.7	7.1	9.6	10.3	10.0	7位
仙台	4.5	1.2	3.2	4.8	3.0	6.5	9.2	8位
札幌	3.3	5.0	6.2	5.2	4.0	5.4	6.3	9位
千葉	3.0	2.7	5.9	5.3	3.6	2.9	4.6	10位
北九州	3.0	2.0	2.4	2.7	4.4	5.4	4.4	11位
広島	2.0	1.9	2.1	3.7	3.5	3.5	4.1	12位

(単位：万人)

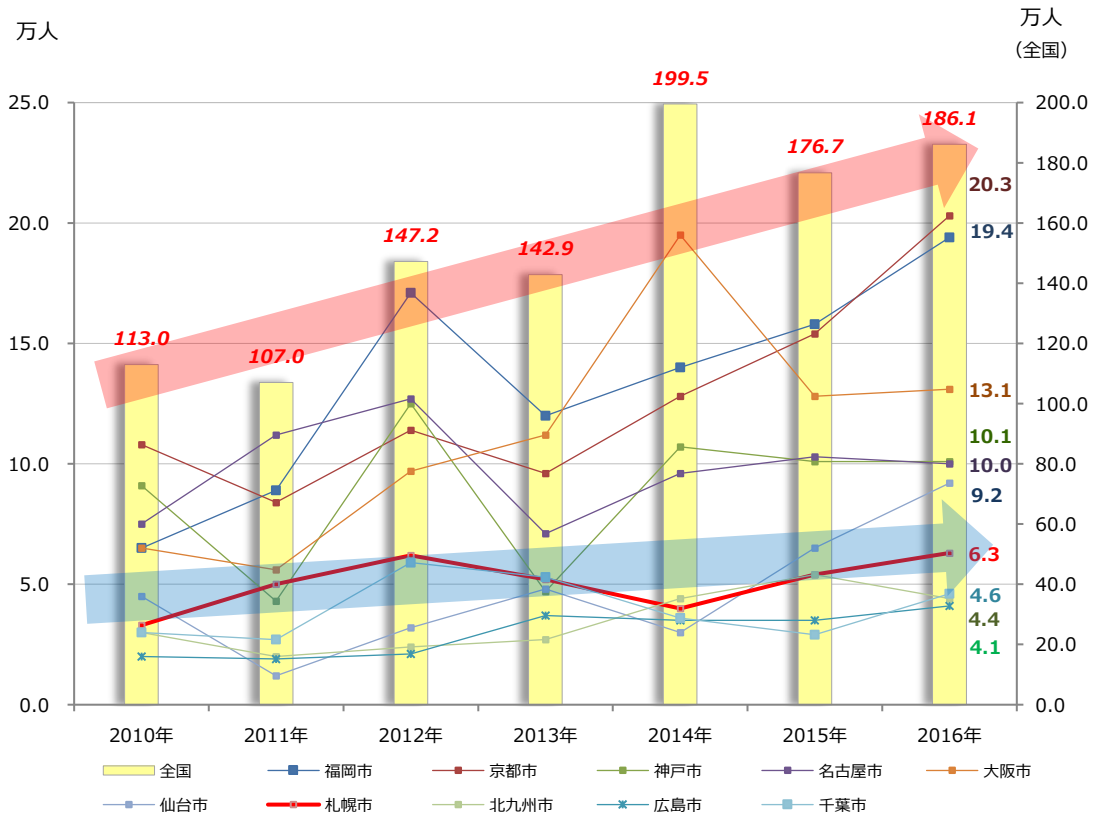
※ **グローバルMICE都市** 国際的なMICE誘致競争が激化する中、海外競合国・都市との厳しい誘致競争に打ち勝ち、我が国のMICE誘致競争を牽引することができる実力ある都市を育成するため、平成25年に7都市（東京都、横浜市、名古屋市・愛知県、京都市、大阪府・大阪市、神戸市、福岡市）と平成27年に5都市（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）の計12都市を選定し、国から支援を行うとともに、各地域の関係者の連携を強化し、都市の自律的な取組を促す制度。

※ **東京** この計画では、東京都のうち、東京23区のことを指す。

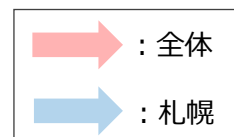
国内全体における国際会議の開催傾向と同様に、札幌においても、国際会議の開催件数や参加者総数は年々増加傾向であるものの、その伸びは他都市よりやや低くなっています。



【国際会議 開催件数の推移（東京及び横浜を除く）】



【国際会議 参加者総数の推移（東京及び横浜を除く）】



② 一件当たりの平均参加者数

都市及び施設ごとの一件当たりの平均参加者数について、下表のとおり整理しました。

札幌は第 8 位であり、中位より下の順位となっています。その一方で、開催件数順位が上位である東京と福岡が下位に位置しています。これは、全国的に大学での開催は一件当たりの平均参加者数が非常に低い傾向にあるため、大学での開催が特に多い、東京や福岡が下位になっているものです。

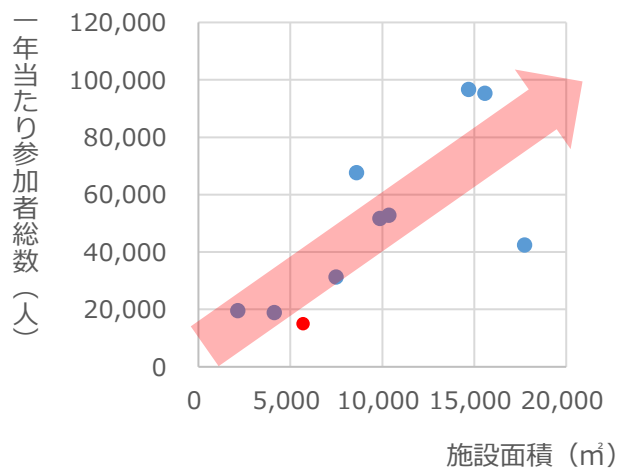
また、札幌コンベンションセンターについても、比較的下位に位置しています。上位に位置している施設は、会議室等の面積が大きな施設となっています。次ページのグラフにあるとおり、会議室等の面積と参加者数は一定の比例関係にあると考えられます。

【各都市の一件当たりの平均参加者数（2012-2016 年平均）（JNTO 統計）】

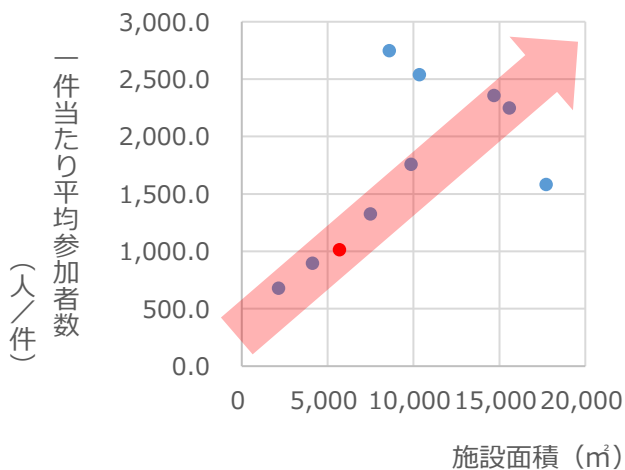
順位	都市名	平均参加者数（人/件）
1	横浜	1,535.0
2	千葉	1,284.6
3	大阪	861.8
4	神戸	710.4
5	名古屋	657.0
6	京都	645.4
7	広島	632.6
8	札幌	587.5
9	東京	548.3
10	北九州	526.7
11	福岡	481.8
12	仙台	454.6

【主な M I C E 施設の一件当たりの平均参加者数（2012-2016 年平均）（JNTO 統計）】

順位	施設名（都市名）	平均参加者数（人/件）
1	パシフィコ横浜（横浜）	3,005.7
2	東京ビッグサイト（東京）	2,804.2
3	福岡国際会議場（福岡）	2,749.4
4	名古屋国際会議場（名古屋）	2,539.1
5	幕張メッセ（千葉）	2,382.7
6	大阪国際会議場（大阪）	2,357.3
7	京都国際会館（京都）	2,248.4
8	神戸国際会議場（神戸）	1,760.0
9	東京国際フォーラム（東京）	1,582.6
10	仙台国際センター（仙台）	1,325.2
11	札幌コンベンションセンター（札幌）	1,013.3
12	広島国際会議場（広島）	895.7
13	北九州国際会議場（北九州）	680.4



【一年当たり参加者総数と施設の会議室等合計面積の関係】



【一件当たり平均参加者数と施設の会議室等合計面積の関係】

- * 特に大きな施設 (30,000 ㎡以上) は除く
- * ● は札幌コンベンションセンター

③ 都市のポテンシャル

都市のポテンシャルは、M I C E の誘致に関する重要な要素の一つです。札幌は「人口」、「事業所数」、「ホテル等客室数」、「魅力度」の全てにおいて上位であり、他都市と比較して、都市のポテンシャルは非常に高いものと考えられます。

一方で、首都圏や関西圏に比べ来訪にかかる経費が高くなる傾向にあることや、冬季に積雪寒冷となる気象条件などの課題があることから、例えば、来訪経費に係る支援施策や外部に出ないアクセス動線の整備など、今後、さらなる配慮が必要となるものと考えられます。

なお、その他札幌には、新千歳空港の冬季の暴風雪による欠航リスクがありますが、本州においては、夏季の台風による欠航リスクがあります。また、札幌には、現状、航空機以外的高速交通機関でのアクセス手法として、新幹線がないといった課題がありますが、新M I C E 施設整備後、2030 年度には北海道新幹線の札幌開業が予定されているなど、その課題も解消される見込みとなっています。

【国際会議参加者数上位都市の状況】

	人口 (千人)	法人事業所 数	市内ホテル 等客室数	魅力度 ランキング
札幌	1,963	52,631	29,440	3
仙台	1,086	32,817	16,617	11
千葉	975	20,596	9,920	圏外
横浜	3,733	81,923	18,163	6
名古屋	2,314	80,578	27,423	21
京都	1,472	41,279	27,753	1
大阪	2,713	115,588	62,580	41
神戸	1,532	39,676	16,530	7
広島	1,199	36,394	14,373	34
北九州	951	24,838	9,574	圏外
福岡	1,567	46,587	27,129	14

【魅力度ランキング 2017・上位 10 都市】

順位	都市名	都道府県名	魅力度
1	京 都	京都府	48.1
2	函 館	北海道	47.7
3	札 幌	北海道	47.0
4	小 樽	北海道	41.3
5	鎌 倉	神奈川県	40.5
6	横 浜	神奈川県	39.7
7	神 戸	兵庫県	38.1
8	金 沢	石川県	37.3
9	富良野	北海道	36.5
10	屋久島	鹿児島県	35.5

- * 人口：「推計人口」（各都市ホームページによる、2017年10月1日）
- * 法人事業所数：平成24年経済センサス（総務省統計局）
- * 市内ホテル等客室数：衛生行政報告例（厚生労働省、2016年度）
- * 魅力度ランキング：ブランド総合研究所
- * 赤文字は表中の上位5都市

④ 施策の状況

各グローバルMICE都市においては、コンベンションビューロー[※]を設置し誘致の取組を行っているほか、国際会議の開催やシャトルバス運行等に係る経費の助成、インセンティブツアーに係る経費の助成などを行っており、助成額や内容など、それぞれ細かな違いは見られるものの、施策の方向性としては、概ね同様と言えるものとなっています。

各都市のソフト施策の中では、開催経費等に対する助成が柱となっていると考えられますが、助成金などの金銭支援以外では、市内大学と協定を締結するなど、大学機関との連携強化を行っている都市も多く見られます。その他には、資料の提供や立候補提案書類の作成支援などを行っている都市が多く、近年大きく開催件数を伸ばしている都市の中には、ピンバッジやコングレスバッグなど誘致ツールとしてのコンベンショングッズの提供、レセプション時に地元ワインの提供、開催決定から開催までの間の参加促進PR活動の支援など、多種多様な支援メニューを設けているところが見られます。

札幌市においては、国際環境指標プログラム「GDS-Index[※]」に加盟し、2015年にはアジア・太平洋地域で第1位となるなど、グリーンMICE[※]やCSR[※]の取組を先進的に進めてきており、平成29年度観光庁CSR事業対象都市にも選定されたところです。また、札幌市のコンベンションビューローについては、プロパー職員を育成しており、専門性が高く、語学力も高い職員が多いなどの特色があります。その一方で、大学機関との連携については、その取組に着手したところでもあり、他都市に比べて遅れているものと考えられます。

- ※ **コンベンションビューロー** 自治体や民間団体等により、国際会議等のコンベンションを誘致することを目的に設立された組織。
- ※ **GDS-Index** ICCA（国際会議協会）・IMEX（世界最大MICE見本市）・MCI（大手会議運営会社グループ）が提供する国際環境指標プログラム。MICE開催都市としてのインフラ環境面での評価を行うほか、都市の取組やコンベンションビューローの受入サポートサービスの改善指導を行っている。
- ※ **グリーンMICE** MICE運営における環境配慮型製品の使用や公共交通機関の利用等の、地球環境に配慮した取組。
- ※ **CSR** コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ（Corporate Social Responsibility）の略。企業の社会的責任。法令順守や社会貢献など、一般に企業が社会に対して果たすべき責任。

⑤ 施設や周辺環境等

グローバルMICE都市の主なMICE施設やその周辺の環境について、評価を行いました。下表のとおり、それぞれの都市で一定規模以上の施設があり、主な隣接MICE施設を合わせると、札幌の施設は最小の規模となっています。また、それぞれ、

- ・空港からのアクセスに優れている：神戸、福岡
- ・最寄駅からのアクセスに優れている：仙台、京都、大阪、神戸、北九州
- ・周辺ホテルが多い：千葉、広島、北九州

などの特長を有しています。

これら現状の施設に加え、各都市等で今後の整備が予定されています。

【各都市の主な施設の延床面積と今後の整備予定】

都市名	主な会議場	延床面積	主な隣接MICE施設	今後の施設整備予定
札幌	札幌コンベンションセンター	20,300㎡	—	
仙台	仙台国際センター	29,025㎡	—	H27.4 に展示場棟 (6,057㎡) を整備
千葉	幕張メッセ	168,578㎡	—	—
京都	国立京都国際会館	46,743㎡	—	H30 年度に展示ホール (2,500㎡) が竣工予定
名古屋	名古屋国際会議場	72,165㎡	—	ポートメッセの隣接地に展示場 (約 20,000㎡) の建設を計画併せて、会議施設の建設を検討中
神戸	神戸国際会議場	17,396㎡	神戸国際展示場	H25 年に「コンベンションセンター再構築基本構想」を策定しているが、現在は再検討中
広島	広島国際会議場	24,649㎡	—	—
福岡	福岡国際会議場	24,885㎡	福岡国際センター マリンメッセ福岡	H33 年度に新たな展示ホール (5,000㎡程度) が供用開始予定
北九州	北九州国際会議場	9,025㎡	西日本総合展示場 AIM	—

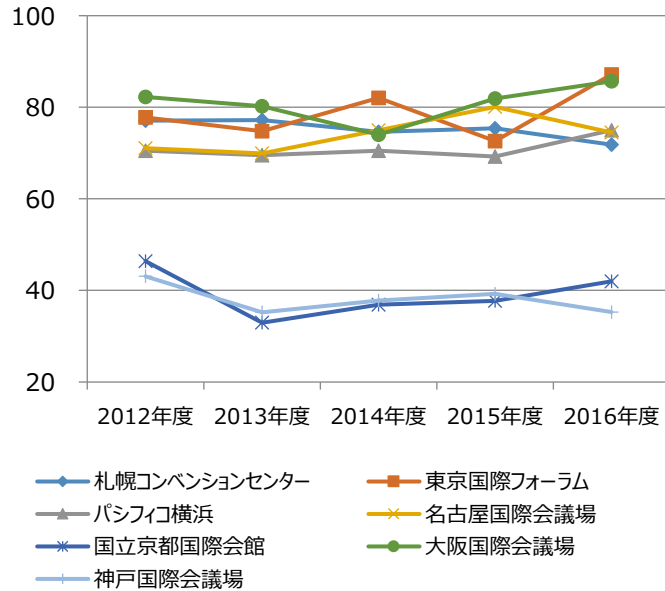
【その他都道府県・政令市における今後の整備予定】

都市名等	今後の施設整備予定	
群馬県	高崎競馬場跡地に整備予定 (2020 年度供用開始予定)	・多目的展示場:10,000㎡、 メインホール:1,300㎡、会議室:合計 2,100㎡
東京都	東京ビッグサイトに展示場を増築 予定(2019 年度供用開始予定)	・展示場:約 10,000㎡× 2
沖縄県	中城湾港マリンタウン地区に整備 予定(2020 年度供用開始予定)	・展示場:30,000㎡以上、多目的ホール:7,500㎡以上、 中小会議室:20~30 室
熊本市	桜町再開発事業により整備予定 (2019 年度供用開始予定)	・展示ホール:約 1,630㎡、多目的ホール:約 840㎡、 メインホール:約 2,300 席、会議室:約 30~300㎡(19 室)

⑥ 施設利用状況

グローバルMICE都市のMICE施設のうち、各種実績等が公表されているものの利用状況について整理しました。

稼働率については、ホール・会議室・展示場いずれについても、半数以上の施設で60%以上の稼働率であり、高いものでは90%に近い稼働率の施設もありました。また、施設全体の稼働率についても、同様の傾向にありました。



【施設全体 稼働率比較】

また、催事の開催状況については、各施設とも、学会や総会、展示会等だけではなく、多様な催事を開催しているところが多くなっています。特に、展示場で高い稼働率を維持している施設においては、コンサートなどの興行を行っているところが多く見受けられました。

2-2 札幌市のMICE誘致推進における現状と課題

(1) 近年の取組

札幌市では、「札幌MICE総合戦略」に基づき、以下のような取組を展開しています。

計画の概要

■ 札幌MICE総合戦略（2015～2019）

— 札幌の魅力あふれる“ONLY ONE”MICE都市 —

- 積極的誘致戦略【重点誘致ターゲット】
 - ① 国内及びアジアをターゲットとした学術系の大規模会議
 - ② 主に東アジア・東南アジアからのインセンティブツアー
 - ③ 国内外に向けたPR効果の高い政府系国際会議
 - ④ 札幌の特色を生かしたスポーツ関連の会議、大会、イベント
- 基盤の強化戦略【受入基盤強化】
 - ① 誘致・開催支援体制の強化
 - ② MICE施設整備とゾーン形成の検討

■ 具体的施策

- 誘致・セールス
次世代キーパーソンに対するサポート、誘致活動の連携を深める官民での情報共有、大型の社員旅行・視察旅行の誘致に向けた市場調査とセールス活動、主要国首脳会議（サミット）の関係閣僚会合の誘致、スポーツコミッションの設置、国内スポーツ関係団体と連携した情報収集・セールス誘致等
- 開催支援・おもてなし
市民向け公開プログラム等のMICEイベントの開催、MICE主催者や参加者の満足度調査等
- 人材育成・高度化
大学と連携した学生のMICEへの理解を深める機会の創出、官民一体による海外ネットワークを活用したノウハウの高度化等
- 組織・運営力の強化
MICE推進委員会ワーキンググループの活用、スポーツコミッションの設置等
- 施設・設備整備
札幌コンベンションセンターに係る連携強化と運営方法等についての検討、MICE施設整備の検討等

(2) 誘致・開催実績

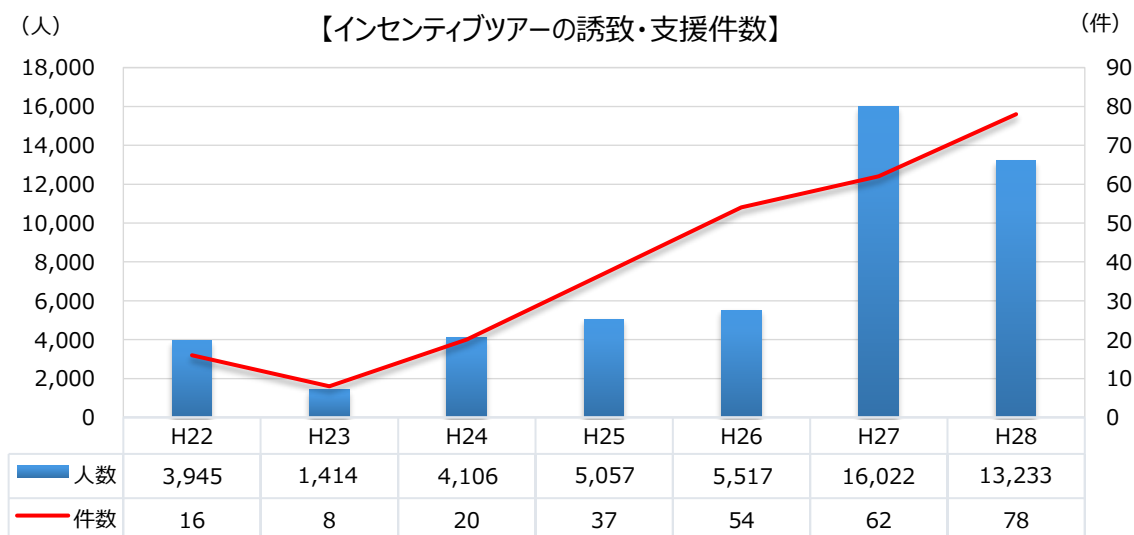
① 国際会議誘致・開催実績

2-1 参照

② インセンティブツアーの開催状況

海外からのインセンティブツアーについては、統一的な統計基準がないため市場全体の動向を把握することはできませんが、札幌では近年、インバウンド観光客（インセンティブツアーを含む）が大きく伸びており、平成28年度（2016年度）には外国人宿泊者数が過去最高の209万人を記録しました。

札幌国際プラザ・コンベンションビューローが誘致・支援したインセンティブツアーに関しても同様の傾向であり、その件数は増加傾向となっています。特に平成24年（2012年）10月の新千歳空港－バンコクの直行便就航を契機として、タイ、マレーシア、インドネシアを始めとする東南アジア方面からのインセンティブツアーが増加しているところです。また、参加者1,000名以上のインセンティブツアーが、平成27年度（2015年度）に3件（いずれも台湾）、28年度（2016年度）に2件（台湾、香港）実施されるなど、大規模なツアーも開催されてきています。



【国・地域別の誘致・支援数推移】

		韓国	中国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	その他	合計
2010	件数	1	2	4	2	3	3					1	16
(H22)	人数	500	305	2,105	255	240	280					260	3,945
2011	件数	2	2	2		1	1						8
(H23)	人数	230	54	750		200	180						1,414
2012	件数	5	2	4	1	1	2	5					20
(H24)	人数	542	422	1,833	40	51	410	808					4,106
2013	件数	5	6	7	2		4	4	9				37
(H25)	人数	286	523	1,897	270		888	393	800				5,057
2014	件数	8	6	10	2	1	1	14	9	2	1		54
(H26)	人数	1,122	330	1,265	468	163	32	1,527	513	54	43		5,517
2015	件数	14	3	11	3	2	5	9	9	5		1	62
(H27)	人数	1,020	197	12,029	197	213	325	793	1,021	155		72	16,022
2016	件数	10	7	19	5	4	12	4	8	6	2	1	78
(H28)	人数	1,206	1,676	4,844	2,465	275	983	258	563	595	308	60	13,233
計	件数	45	28	57	15	12	28	36	35	13	3	3	275
	人数	4,906	3,507	24,723	3,695	1,142	3,098	3,779	2,897	804	351	392	49,294

(3) M I C E 関連施設の状況

現在、札幌における国際会議等は、主に、札幌コンベンションセンターがある東札幌エリア、さっぽろ芸術文化の館がある西 11 丁目駅周辺地区、北大エリアの大きく 3 つの拠点において、ホテルや大学施設、公共施設等を効果的に活用しながら展開されています。

その中でも特に大規模な国際会議等は、さっぽろ芸術文化の館と周辺ホテルを連携させるなどにより、主に西 11 丁目周辺地区にて開催されています。

【主な M I C E 開催エリアの概況】



こうした状況の中、都市としての規模や魅力度等の M I C E 誘致・開催に有利となる条件は優れているものの、札幌コンベンションセンターはホールと展示場が併設されておらず宿泊施設も近接していないなど、札幌の M I C E 関連施設が他のグローバル M I C E 都市の施設と比較して必ずしも優れていないこと等により、他のグローバル M I C E 都市よりも、一件当たりの参加者数が少ない状況となっています。また、他のグローバル M I C E 都市の主要施設の参加者数は、都市全体の参加者数の約 5 ～ 7 割を占めている中で、札幌コンベンションセンターのその割合は 3 割弱であることから、札幌コンベンションセンターは、都市の主要施設としての競争力が弱い状況といえます。

さらには、さっぽろ芸術文化の館が平成 30 年（2018 年）9 月に閉館する予定であることから、これまでどおりの形での特に大規模な国際会議等の開催については、市内各施設間を連携させて開催するなど、工夫が必要となる状況にあります。

(4) 課題

これまでの現状分析等を踏まえ、以下のような課題が考えられます。

状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的なMICEの開催状況は、<u>3,000～10,000 人の会議の増加傾向が強く、そのうち、5,000 人規模までの会議割合が高い。</u> 	⇒ <u>施設単体で 5,000 人規模、周辺施設と連携し 10,000 人規模をターゲットとすることが効果的・効率的。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌は国際会議の開催件数で国内第 8 位（JNTO基準）ではあるが、<u>第 7 位との差は大きく、開催件数上位都市と比べて一件当たりの参加者数も少ない。</u> 	⇒ <u>参加者数を増加させるためには、大規模国際会議等を誘致・開催することが効果的。</u>
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルMICE都市の中で、人口・事業所・魅力度等のMICE誘致に関わる条件は優れている。 ・キーパーソン等を多数有する大学が存在している。 	⇒ <u>施設整備による効果が見込めるとともに、その効果をより一層高めるためには、これらの強みを生かし、世界に伝えていくことが必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンMICEやCSRなど、先進的な取組を進めているほか、コンベンションビューローに特色があるなど、特徴的なソフト施策がある。 	
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>大規模な国際会議等を単独で開催できる規模の施設がない。</u>（札幌コンベンションセンターは展示場が併設されていないため、大規模な国際会議等の開催が難しい場合がある。） 	⇒ <u>大規模な国際会議等の誘致・開催のためには、単独で開催できる規模の施設が必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの、さっぽろ芸術文化の館と周辺施設を連携させるなどにより西 11 丁目駅周辺地区で大規模な国際会議等を開催してきたが、平成 30 年（2018 年）9 月にさっぽろ芸術文化の館が閉館する予定。 	⇒ <u>市内各施設を連携させて大規模な国際会議等を開催する必要がある。また、大規模な国際会議等を単独で開催できる規模の施設が必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な国際会議等のニーズに応えられる魅力的な施設がない。（札幌コンベンションセンターは周辺に宿泊施設や飲食施設が少ないなど、<u>周辺環境の機能性や魅力が低いのでMICE誘致に不利。</u>） 	⇒ <u>大規模な国際会議等の誘致・開催のためには、ニーズを踏まえ、施設や周辺環境の機能性や魅力の高さも必要。</u>
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの大規模な国際会議の主な開催エリアは、札幌駅及び最寄駅からの<u>アクセス性が低く、利便性も低いなど立地が必ずしも良くない。</u>また、冬季に積雪寒冷となる気象条件の課題もある。 	⇒ <u>アクセス性や利便性について、より優位な立地の施設があると競争力が高まる。</u>

(5) 課題解決に向けた基本的考え方

上記(4)で整理した課題の解決に向けて、以下の基本的考え方のもと施策を展開していきます。

都市の規模・魅力度やキーパーソンを有する大学の立地など、MICE誘致・開催に有利となる条件は優れているものの、展示場とメインホールが併設されたMICE施設が無いことや、MICE施設と宿泊施設の近接性が劣ることなどにより、国内の国際会議開催上位都市と比較し、大規模な国際会議の件数や開催割合が大きく劣っている状況。

国際会議参加者数を増加させるためには、増加傾向にある大規模な会議をより一層誘致していくことが効果的。そのため、他都市と比べて、札幌市が劣っているハード面の環境改善を図ることが重要

大規模な国際会議等の誘致・開催が可能な、市場ニーズを捉えたより魅力的なMICE施設が必要

第3章 MICE施策の方向性

札幌MICE総合戦略を補完するものとして、現時点の市場動向や将来的な需要予測を踏まえ、今後のMICE施策の方向性について整理します。なお、今後、札幌MICE総合戦略を見直す際には、必要に応じて、時点修正のうえ反映させるものとします。

3-1 MICE市場の将来予測

MICE市場の将来予測については、公的機関や民間シンクタンク等による市場の需要推計等のデータがないことから、これまでの傾向を基に、人口推計や経済推計等を踏まえ、以下のとおり、予測を行いました。

(1) 国際会議の将来予測

世界的にも国内的にも、今後10年程度は国際会議の開催件数は緩やかに増加し続け、その後、高い水準を維持して推移するものと推定されます。

また、過去の傾向でも増加率が高かった3,000人以上の大型国際会議についても、増加傾向は続くものと想定されます。

(2) 国際会議以外の市場将来予測

国際会議以外の市場については、公的な統計がなく、定量的な予測は難しい状況です。

そのうち、インセンティブツアーに関しては、支援等で関与した件数を計測している自治体等が見受けられる状況であり、それらの自治体等については、数値は非公表ですが、その件数が増加傾向にあるとのことでした。

また、エキシビジョン・イベントについては、2-1-(1)で示したとおり、一般社団法人日本イベント産業振興協会が発表している国内のイベント消費規模推計によると、イベント消費の伸びは、平成27年（2015年）、平成28年（2016年）と連続して10%を超えている状況にあり、その伸び率は国際会議の伸び率を大きく上回っていることから、人口推計や経済推計等を踏まえても、今後も一定の需要の伸びはあるものと推測されます。

3-2 積極的誘致戦略と基盤の強化戦略

札幌MICE総合戦略に定める戦略等について整理します。

(1) 積極的誘致戦略

積極的誘致戦略に定める重点誘致ターゲットは、「国内及びアジアをターゲットとした学術系の大規模会議」、「主に東アジア・東南アジアからのインセンティブツアー」、「国内外に向けたPR効果の高い政府系国際会議」、「札幌の特色を生かしたスポーツ関連の会議、大会、イベント」です。

そのうち、特に科学系・医学系の学術会議は、大規模な会議が開催されると、その関連の中小規模の会議を呼び込む傾向があり、また、展示会を併催するケースが多く、会議参加者以外にも多くの来訪者が望めるなど、経済効果やブランド力の向上の面から効果が高いものと考えられます。その他、インセンティブツアーに関しても、特に経済波及効果が高いものと言われています。

これらのターゲットについては、継続して重点誘致ターゲットとして取組を推進していきます。

一方、その他のMICEについては、平成29年度（2017年度）に観光庁がMICE国際競争力強化に向けて策定した「関係府省MICE支援アクションプラン 中間とりまとめ」の中で、「魅力的で多様なMICE（特にM・I）商品開発に向けてのニーズ調査」を実施するとしており、具体的には、各地域の観光資源・特色を活かしたMICE商品の造成に関するニーズや素材の調査を行っ

たうえで、調査の結果を踏まえ、観光庁をはじめとする関係府省が協働して、民間における商品造成の促進のための取組を検討することとされています。さらに、3-1-(2)のとおり、コンベンション以外の市場についても、将来的な需要の増加が見込まれているところです。

こうした状況を踏まえ、国の調査結果やそれを受けた取組との整合も図りながら、M I C E 全般に関する取組の実施についても適宜検討していく必要があります。

(2) 基盤の強化戦略

基盤の強化戦略に定める受入基盤強化は、「誘致・開催支援体制の強化」、「M I C E 施設整備とゾーン形成の検討」です。そのうち、「誘致・開催支援体制の強化」については、基本的な方向性としては現在の取組を継続して行くこととしますが、随時、効果的でニーズに合った誘致・開催支援のあり方について検討を行い、必要な見直しを図っていくこととします。

また、「M I C E 施設整備とゾーン形成の検討」については、経済波及効果の高い大型の国際会議が増加傾向であること、M I C E 誘致に係る都市間競争が激化の一途をたどる中で、その都市間競争に打ち勝つ以前に、加わる段階においても、ある程度の規模のM I C E が開催できる機能を備えた施設を有していることが前提条件であることが挙げられます。

これまで札幌においては、3,000 人を超えるような大規模な国際会議については、さっぽろ芸術文化の館も含めた複数施設を活用することで対応してきましたが、今後、さっぽろ芸術文化の館が閉館することに伴い、同規模のものを開催する場合には、より広い範囲で複数施設を活用しなければならないケースが増加すると想定されます。

上記のような開催形態は、一般的には主催者にとって負担が大きく、参加者にとっても利便性に欠けるものであるため、開催地として敬遠されやすい要素となります。

こうした状況を踏まえ、さっぽろ芸術文化の館の閉館後の対応策を講じていくとともに、更なる機能強化を図るためには、新M I C E 施設を整備することが必要です。

なお、M I C E 誘致に際しては、M I C E に対する市民理解の醸成や市民参加によるおもてなしの取組なども重要です。市民向けの公開プログラム等の開催など、市民の理解や協力を得られるよう施策を推進していく必要があります。

(3) 施策の推進に向けて

① 大学との連携について

国際会議等の誘致にあたっては、大学等の研究機関が充実し、学術系コンベンションのキーパーソンが集積していることが重要な要素となります。

札幌においては、北海道大学や札幌医科大学をはじめとして、大学研究機関が充実しており、前述のキーパーソンの集積という環境は整っている状況にあります。

上記のような状況を受けて、平成 29 年度（2017 年度）から、官民連携のM I C E 推進体制である「さっぽろM I C E 推進委員会」に北海道大学をメンバーとして加えるなど、これまでも大学との連携について取り組んできたところですが、今後は、今まで以上に実効性のある内容により、大学との連携を推進していくことが重要です。

② 周辺自治体との連携について

M I C E の開催、なかでも大規模な国際会議は、展示会などを併催するケースも多く、元々の会議の参加者以外にも多くの来訪者が訪れ、関連したアフターコンベンション[※]やエクスカージョン[※]などの多様性が、大規模な国際会議を誘致する際のアドバンテージとなります。

※ **アフターコンベンション** 会議の終了後に催される行事やイベント、または自由行動としてのショッピングや娯楽等の活動のこと。

※ **エクスカージョン** 地域の自然や歴史、文化などをテーマにした体験型の視察会など。

その際、周辺自治体と連携し、その豊かな自然や様々な景観などの観光資源を活用するなど、札幌市単独では成し得ない特徴を持ったメニューを用意し、内容に多様性を持たせることで、MICEの参加者数や開催件数の増加につながることが見込まれます。また、周辺自治体にとっては、連携した取組を行うことによって、MICEの持つ経済波及効果をより直接的に得られるとともに、国際的な知名度の向上につながることが見込まれ、インバウンドの増が期待されることです。

そのような取組を通じて、札幌圏、さらには北海道全体の魅力を活かしたMICEの展開を図ることで、都市間競争に打ち勝つ“ONLY ONE”MICE都市の実現、ひいては地域全体の発展に寄与していきます。

3-3 MICE誘致の目標等

この計画の目標について、以下のとおり定めます。目標については、新MICE施設整備の翌年度に達成することを目指します。

(1) MICE誘致の目標

国際会議参加者総数について、東京、横浜を除いた国内トップレベル

<設定の考え方>

MICEのうち、唯一公式的な統計がある「国際会議」について、経済波及効果に直接的に影響を与えると考えられる「参加者総数」を目標項目とします。

国際会議参加者総数の国内上位都市は、前述のとおり、グローバルMICE都市が占めており、とりわけ、平成25年（2013年）に選定されたグローバルMICE都市（東京、横浜、名古屋市・愛知県、京都市、大阪府・大阪市、神戸市、福岡市）がその上位を占めています。特に、東京と横浜については、突出した参加者総数で推移しています。また、その後に平成27年（2015年）に選定されたグローバルMICE都市（札幌市、千葉県千葉市、仙台市、広島市、北九州市）が続いている状況にあります。

札幌市が、激しい都市間競争に打ち勝つためには、都市の立地や規模、魅力等を踏まえた高い目標に向かって施策を展開する必要があります。

以上のことから、国際会議参加者総数について、東京と横浜を除いた国内都市の中でトップレベルを目指すこととします。

(2) M I C E 誘致の成果指標

(1)に掲げた目標の達成に向けて、以下のとおり、成果指標を設定します。なお、インセンティブツアーの誘致・支援件数については、3-2-(1)に記載のとおり観光庁が今後注力していくことが見込まれることや、札幌M I C E 総合戦略において重点誘致ターゲットの1つとしていることなどを踏まえ、成果指標とすることとします。

【M I C E 誘致の成果指標】

(施設単体)

	2016 年度
国際会議参加者総数	—



2026 年度
7.6 万人

(札幌市全体)

	2016 年度
国際会議参加者総数	6.3 万人
国際会議開催件数	115 件
(内訳) 3,000 人超	6 件
1,000 人超~3,000 人	12 件
1,000 人以下	97 件
インセンティブツアー誘致・支援件数	78 件



2026 年度
16.5 万人
241 件
17 件
19 件
205 件
100 件

* 成果指標設定の考え方

- 国際会議参加者総数（施設単体）
他都市類似施設の参加者総数平均を施設の会議室等の面積で補正して算出。
- 国際会議参加者総数（札幌市全体）
これまでの傾向や人口推計、経済推計等を考慮し、他都市施設整備の動向も加味したうえで、各都市の国際会議参加者総数について予測を行いました。その結果の中で、札幌より上位の都市（東京、横浜を除く）の平均値を上回る数値を成果指標として設定。
- 国際会議の開催件数
国際会議参加者総数の成果指標を達成するため、これまでの一件当りの参加者数などを踏まえ算出。
- インセンティブツアー誘致支援件数
観光まちづくりプランに掲げる成果指標に新M I C E 施設整備による効果を上乘せして算出。

3-4 将来予測や戦略等を踏まえた施設整備の考え方等

目標達成に向けて、将来予測や基盤の強化戦略、課題解決に向けた基本的考え方などを踏まえ、大規模な国際会議の誘致・開催が可能な、ニーズに合った、より魅力的で機能性の高い新施設を整備することとします。

(1) 新MICE施設の考え方

- ・経済波及効果やブランド力向上効果が高い、大規模な国際会議等が開催できる施設規模
- ・札幌の魅力を生かし、市場ニーズを捉えた施設
- ・メインホール・会議室はもとより、展示場、宿泊機能が一体（又は近接）となった施設機能
- ・アクセス性や、飲食・アフターコンベンション等の利便性が高い、都心部に立地

(2) 施設のターゲット

新MICE施設については、札幌市のMICE誘致推進における主な誘致ターゲットのうち、以下のものを重点ターゲットとして整備することとします。

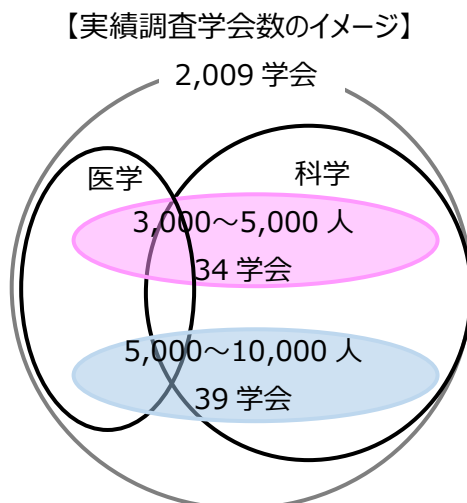
- ・大規模な国際会議の中でも特に増加傾向にある、3,000～10,000人規模の国際会議
- ・そのうち、5,000人規模までの会議の割合が6～8割と特に高い割合で推移していることから、施設単体で5,000人規模まで、周辺施設と連携し10,000人規模の国際会議
- ・これらの開催割合が高く、また、経済波及効果やブランド力の向上効果が高い、科学系・医学系の学術会議
- ・増加傾向にあり、経済波及効果が高いインセンティブツアーのレセプション

なお、施設の稼働率の確保も重要であることから、上記のターゲットの他、市民が参加することができる興行等にも対応できる施設とします。

3-5 施設規模の検討

(1) 実績調査及びヒアリング調査の対象

日本学術会議に登録されている2,009の学会のうち、医学・科学の分野の学会について、ターゲットとするMICEの開催実績がある学会を選定するため、JNTOの国際会議統計より参加者数を規模別に分類し、「大学開催ではなく施設開催であること」と「開催都市が固定されていないこと」の条件により選別しました。その結果、3,000～5,000人規模34学会、5,000～10,000人規模39学会を選定し、それらの学会を対象として、開催実績調査を実施しました。また、それら学会のうち、協力の得られたものについて、主催者や事務局、PCO[※]等を対象としてヒアリングを行いました。



(2) 開催実績の調査

対象学会の学会プログラムから開催実績調査を行った結果を以下に示します。

① メインホール

3,000～5,000人規模の学会では、2,000㎡で80%以上が開催可能であり、3,000㎡あれば100%の学会が開催することが

できます。また、5,000～10,000人規模の学会では、2,000㎡では50%程度しか開催することができませんが、3,000㎡あれば80%以上の学会が開催可能となります。

② 中規模（300～500㎡程度）の会議室

3,000～5,000人規模の学会では、中規模会議室の合計面積が2,400㎡で80%程度開催することができます。また、5,000～10,000人規模の学会では、2,400㎡では70%程度しか開催することができませんが、周辺施設の会議室を合わせると、+αの開催が可能となることが想定されます。また、その室数についても開催実績より導出を行った結果、3,000～5,000人規模の学会では4室以上あると80%以上が開催可能となります。

③ 小規模（300㎡未満）の会議室

3,000～5,000人規模の学会では、小規模会議室の合計面積が2,700㎡で80%程度開催することができます。また、5,000～10,000人規模の学会では、2,700㎡では60%程度しか開催できませんが、周辺施設の会議室を合わせると、+αの開催が可能となることが想定されます。また、その室数についても開催実績より導出を行った結果、3,000～5,000人規模の学会では11室以上あると80%以上が開催可能となります。

※ PCO Professional Congress Organizer の略。コンベンション等を専門的かつ総合的に企画・運営するサービスを提供する法人のこと。

④ 展示場

3,000～5,000 人規模の学会では、4,000 m²で 100%の学会が開催することができます。また、5,000～10,000 人規模の学会では、4,000 m²で 80%程度以上の学会が開催可能であり、5,000 m²あれば 90%以上の学会が開催可能となります。

(3) ヒアリング調査

ヒアリング対象のうち、協力を得られた主催者等にヒアリング調査を行いました。その主な結果について、以下に示します。

A.メインホール
<ul style="list-style-type: none">・開会式や基調講演等に使用するが、実際の出席者は参加者総数の 2～3 割程度（8,000 人規模の学会で 1,500～2,000 人程度など）である。・天井高さは演台及びスクリーンの高さ+ 1.0mが必要。・スクリーンのサイズは部屋の奥行に応じて変わる。・固定席は必ずしも必要なく、可動席で座席を増設できると良い。・講演会の開催に関しては、大掛かりな舞台装置や音響設備は不要。・稼働率をあげるためには、興行系の開催が必要であろう。
B.会議室
<ul style="list-style-type: none">・小さい会議室の利用だけでは、収益が上がらないため、メインホールや展示場の稼働率が重要となる。・300～500 m²、50～100 m²程度などの大きささまざまな規模の会議室が必要。・10,000 人規模でも 20 室位のセッションがある。部屋の区分けについては、移動間仕切りがなくても、ローパーティションで区切れれば可。複数の会議室をつなげたり、分割できる仕様が汎用性が高い。・天井高さは、スクリーン設置した上にバトンを吊ることを考慮し、スクリーン高さ+ 1.0m程度が必要。・スクリーンの下部は着席時の頭上に位置する必要がある。
C.展示場
<ul style="list-style-type: none">・3,000 m²程度は必要。可能であれば 6,000 m²程度確保できるのが理想。・移動間仕切りで分割利用可能であると良い。・会議や学会での利用時における天井高さは 10.0m以上必要。興行を行う場合には、その種類ごとに必要な天井高さが異なる。・床耐荷重が 5.0t/m²程度必要。・アンカーを打てるようコンクリート床が良い。・機材の搬出入等を考慮すると、1 階が望ましい。・展示場面積と合わせて、ホワイエやロビー、倉庫面積が十分に確保されていることが望ましい。・展示場に柱がない方が多様なイベントに対応でき、稼働率を上げることができる。

3-6 施設の望ましい規模

3-5-(2)で整理した、開催実績調査の結果（実際に使用した場所の規模）を基に、ヒアリング調査の内容（最低限必要だった規模）を踏まえ、新MICE施設に望ましい規模を下表にまとめます。

【望ましい規模】

室名	面積[m ²]	室数	天井高さ
メインホール	2,000 m ² 程度	1室	10.0m以上
中会議室	計 2,400 m ² 程度	4室以上	3.5～
小会議室	計 2,700 m ² 程度	11室以上	5.5m程度
展示場	4,000 m ² 程度	1室	10.0m以上

第4章 整備場所の検討

4-1 比較検討する整備候補地

この計画では、「西11丁目駅周辺地区」と「中島公園駅周辺地区」の二つの整備候補地について検討を行うこととします。整備候補地の近年の状況、候補地となった経緯等は以下のとおりです。

(1) 西11丁目駅周辺地区

場所：中央区北1条西12丁目（市有地）

当該地に現在立地しているさっぽろ芸術文化の館は、昭和46年（1971年）に北海道厚生年金会館として開館しました。平成21年（2009年）12月より札幌市の所有施設となり、さっぽろ芸術文化の館へと名称を改め、さらには、平成22年（2010年）4月、ホール部分について、ネーミングライツにより、愛称「ニトリ文化ホール」となりました。

さっぽろ芸術文化の館は、2,300席を有する固定席のホールをはじめ、宿泊施設や会議室などで構成されています。近年は、この施設と周辺ホテル等を連携させて、特に大規模なMICEが開催されてきました。

しかしながら、さっぽろ芸術文化の館は、後継施設である札幌市民交流プラザが開館すること、また、施設の老朽化により、平成30年（2018年）9月に閉館する予定となっており、西11丁目駅周辺地区での大規模MICEの開催が難しくなることが想定されます。

当該地は、これまで担ってきた大規模MICE開催の実績・知名度や周辺施設と連携するノウハウの蓄積などを踏まえ、整備候補地の一つとするものです。

(2) 中島公園駅周辺地区

場所：中央区南10条西3丁目（民有地）

当該地は民有地であり、現在は札幌パークホテルが立地しています。札幌パークホテルは、昭和39年（1964年）開業で、1,000㎡を超える宴会場や中小の宴会場などを有する札幌市内では老舗のホテルです。

平成28年（2016年）1月に、札幌パークホテルを所有する「(株)グランビスタ ホテル&リゾート」及び「(株)サンケイビル」（以下「パークホテル」という。）よりホテル建替えとMICE施設の一体整備の提案がありました。

当該地は、民間事業者からの提案を踏まえ、交通アクセスや宿泊・飲食機能などの周辺環境が優れていると考えられることから、整備候補地の一つとするものです。

4-2 各整備候補地の札幌市における位置付け

札幌市のまちづくりに関する関連計画における、各整備候補地の位置付けを以下に整理します。

(1) 両地区共通事項

	位置付け（関係部分抜粋）
札幌市まちづくり 戦略ビジョン	<p>目指す都市空間</p> <p><活力があふれ世界を引きつける都心></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次な都市機能の集積や魅力ある都市空間の創出など、札幌の顔にふさわしいまちづくりを重点的に進めていくことで、市民生活の質の向上を支えるとともに、札幌を世界にアピールすることができる、魅力的な都心を目指します。 <p><持続可能な都市を支えるネットワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路などからの都心へのアクセス性を高めるため、都心アクセス強化道路軸の検討を、国とも連携しながら進めます。
第2次札幌市都市計画 マスタープラン	<p>総合的な取組の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力があふれ世界を引きつける都心 <p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌の資源や資産を生かして、新たな価値や魅力、活力を創造することができるまちづくりが進められています。 ・国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、札幌はもとより北海道の経済を支えています。 <p>実現に向けた取組の方向性</p> <p><世界が注目する都心強化の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心の資源や資産を生かした都市観光交流の促進やM I C E 環境の充実などを図ります。
札幌市立地適正化計画	<p>区域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市機能誘導区域（都心） <p>誘導施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際競争力の向上に資する高次都市機能を有する施設（M I C E 関連施設、高機能オフィスビル）
第2次都心まちづくり計画	<p>都心まちづくりの戦略</p> <p><北海道・札幌を先導する都心のビジネス・都市観光機能の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌・都心の資源や資産を活かした観光交流の促進やM I C E 環境の充実
札幌市みどりの基本計画	<p>みどりの将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たち誰もが安心して活用できる人に優しいみどり <p>計画の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の魅力向上 <p>推進プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人・まち・環境に役立つ公園の機能を充実します <p>施策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模公園の機能の充実 <p>（参考）公園緑地の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大通公園：都市公園－特殊公園 ・中島公園：都市公園－基幹公園－都市基幹公園－総合公園

これらの計画を踏まえると、いずれの地区であっても、新M I C E施設の整備によりM I C E環境の充実を図ることは重要です。また、大通公園や中島公園の機能を向上させることは、札幌市みどりの基本計画にも資するものと考えられます。

(2) 西 11 丁目駅周辺地区

	位置付け（関係部分抜粋）
第 2 次都心まちづくり計画	<p>持続的な取組を通じた都心の空間形成指針 骨格軸形成・強化の指針</p> <p><大通 ～はぐくみの軸></p> <p>○骨格軸の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大通公園及びその沿道周辺を、札幌を象徴するレガシーとして次の時代につなげていくための検討 <p>エリア特性に応じたまちづくりを進めるための取組</p> <p><大通公園西周辺エリア></p> <p>展開指針：地区に集積するホール・ホテル等の施設を活かした集客交流機能の向上</p> <p>○交流機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模会議施設やホテル等の集積を活かした札幌都心 M I C E との連携 ・大通やすすきのエリアとの連携や美術館や資料館といった文化資産などを活用した、札幌ならではの歩きながら楽しめるアフター M I C E 環境の強化 <p>○他のターゲット・エリアとのネットワーク強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格軸の高質化を通じて、共に都市観光促進・M I C E 展開を支える、都心強化先導エリア、すすきのエリアをはじめとする他のターゲット・エリアとの連携を高め、一体的に世界を惹きつける都心の魅力づくりを推進

第 2 次都心まちづくり計画を踏まえると、西 11 丁目駅周辺地区においては、新 M I C E 施設の整備は、集客交流機能の向上に資するものと考えられます。

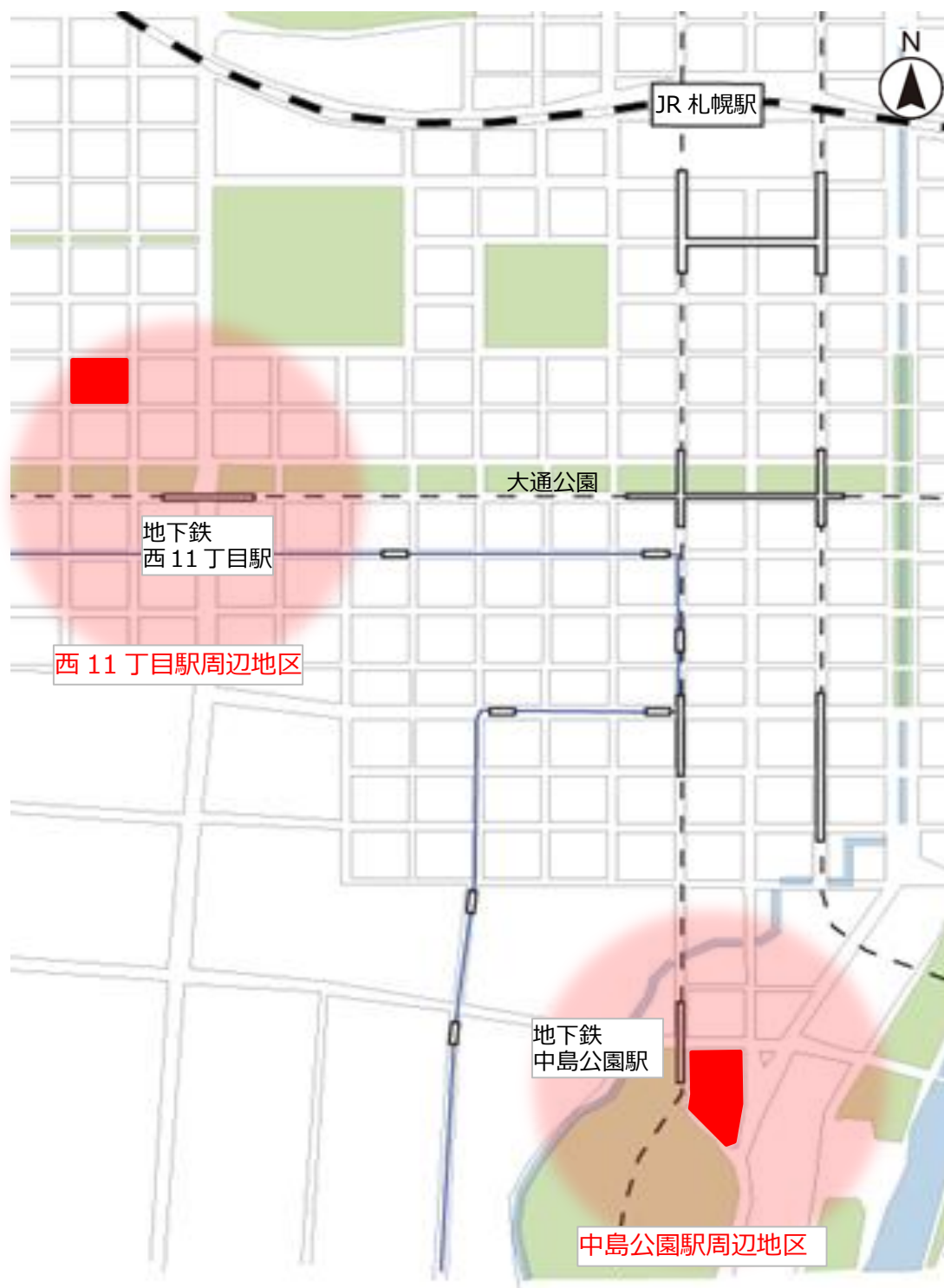
(3) 中島公園駅周辺地区

	位置付け（関係部分抜粋）
第 2 次都心まちづくり計画	<p>持続的な取組を通じた都心の空間形成指針 骨格軸形成・強化の指針</p> <p><駅前通 ～にぎわいの軸></p> <p>○軸双方向からの資源・資産の高質化による、にぎわいの軸の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌開拓のレガシーであり、都心南のゲートとなる中島公園北部の既存資源を活かした札幌都心らしいにぎわいと豊かな環境を体感できる都市観光・交流の場の強化 <p>エリア特性に応じたまちづくりを進めるための取組</p> <p><すすきのエリア></p> <p>○資源活用と周辺との連携・連鎖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の中島公園との連続性の向上や、観光交流や市民交流を支える資源の活用と機能強化の検討 ・札幌駅や大通公園西周辺エリアと連携した、札幌ならではのアフター M I C E 環境の強化

第 2 次都心まちづくり計画を踏まえると、新 M I C E 施設の整備は、観光交流や市民交流を支える機能強化に資するものであるとともに、中島公園との連続性の向上等にも資するものと考えられます。

4-3 各整備候補地の状況比較

各整備候補地について、M I C E 施設整備に向け、状況等を整理し比較を行います。



(1) 西 11 丁目駅周辺地区

① 敷地概要

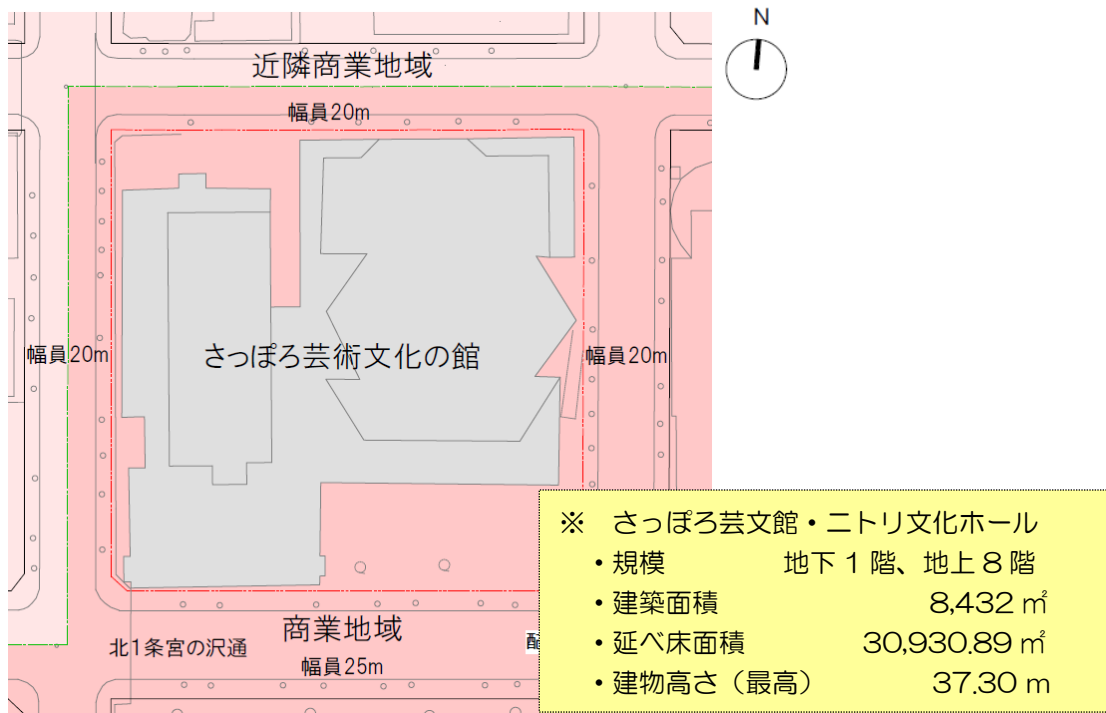
- 所在地 中央区北 1 条西 12 丁目
- 敷地面積 11,639 m²
- 基準建ぺい率 80%
- 指定容積率 400%
- 用途地域 商業地域
- その他地域地区等 準防火地域、集合型居住誘導区域、都市機能誘導区域（都心）
景観計画区域、緑保全創出地域種別：業務系市街地
- 日影規制 北側隣地が近隣商業地域のため規制あり
- 高さ制限 60m 高度地区
- 接道道路 北側：幅員 20m
東側：幅員 20m
南側：幅員 25m 北 1 条宮の沢通
西側：幅員 20m
- ハザードマップ

液状化	液状化発生の可能性が低い
洪水	計画規模：浸水なし、想定最大規模：深さ 0.5m未満の区域
地震	最大の震度 6 弱



【周辺施設図】

* 駅の周囲半径約 300m（おおよそ徒歩 10 分の範囲）を対象区域として設定



【現状配置図】

② 立地条件

当該敷地は商業地域ですが、隣接する北側の街区は近隣商業地域であるため、建築基準法上の日影規制を考慮する必要があります。

現状の芸文館は、既存不適格（建築時には適法に建てられた建築物だが、その後、法令の改正や都市計画変更等によって現行法に対して不適格な部分が生じた建築物。当該施設は昭和46年（1971年）に建物竣工。昭和51年（1976年）に日影規制の制度が創出された。）であるため、当該敷地に新たな施設を建築する場合は、この規制の影響を受けることとなります。

【近隣商業地域の日影規制】

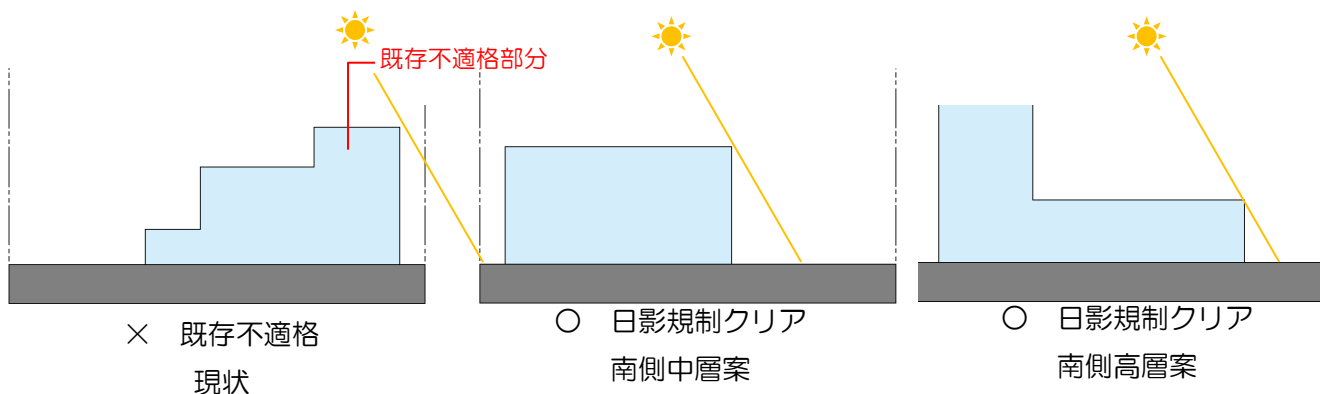
制限を受ける建築物	平均地盤からの高さ	敷地境界線からの水平距離が5mを超えて10m以内の範囲における日影時間	敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲における日影時間
高さが10mを超える建物	4.0m	4時間	2.5時間

* 日影規制：冬至日における中高層建築物の日影が、その敷地境界線から隣地に向かって、一定の距離の範囲内にある時間以上生じないように、中高層建築物の高さや位置、形等を規制して、周辺敷地の日照などの住環境を保護しようとするもの。

当該敷地において施設整備を検討するにあたっては、建物の南側の高さを確保する一方で、北側は低く抑えるなど、設計上の工夫が必要となります。

床面積を確保しながら日影に配慮する場合、以下の方法が考えられます。

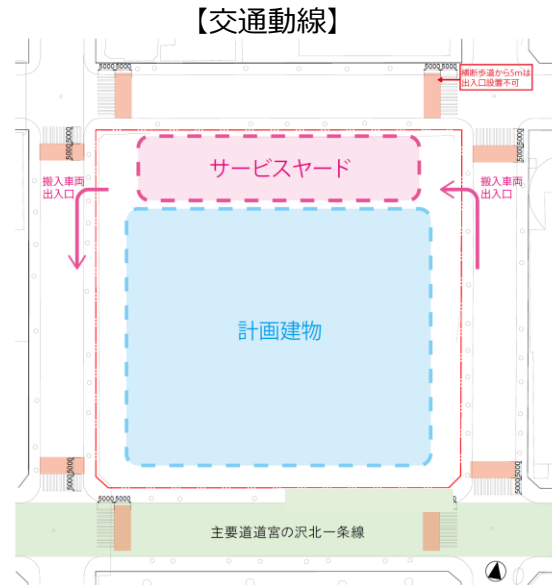
【ホールを想定した場合の建築イメージ】



③ 交通動線

敷地南側の接道道路は、主要市道の北1条宮の沢通に面しています。また、東側に1街区離れた位置には、国道230号線の石山通があり交通量が多い状況です。

日影規制の状況も踏まえると、敷地北側に車両が入り出すサービスヤードを設けるとともに、スムーズな交通動線を確保するため、敷地東側から車両が進入し、敷地西側へと抜ける配置とすることが望ましいものと考えられます。



④ 周辺環境

ア アクセス

- ・ 新千歳空港からのアクセス
 空港連絡バス〈所要時間約 90 分〉
 * 隣接する「ロイトン札幌（北 1 西 11）」と空港とを結ぶ連絡バス
 JR-地下鉄（南北線、東西線）乗換え〈所要時間約 44 分〉
- ・ 中心駅（札幌駅）からのアクセス
 タクシー〈所要時間約 7 分〉
 バス 〈所要時間約 10 分〉
 地下鉄〈所要時間約 8 分〉* 南北線から東西線への乗換が必要。
- ・ 最寄駅からのアクセス
 地下鉄東西線「西 11 丁目」駅から徒歩約 5 分。
 * ただし、地下鉄直結ではなく、屋外に出る必要有り。

イ 宿泊機能

「ロイトン札幌（292 室 内、スイート 10 室）」や「札幌プリンスホテル（587 室 内、スイート 12 室）」、「札幌ビューホテル大通公園（285 室 内、スイート 2 室）」がある他、西 11 丁目駅周辺地区には 1,571 室（内、スイート 24 室）の客室があります。

ウ 飲食

「ロイトン札幌」や「札幌プリンスホテル」、「札幌ビューホテル大通公園」等、周辺に位置するホテルには、日本食をはじめ、洋食、中華等のレストランやカフェが併設されています。また、西 11 丁目駅の周辺についても飲食店が一定程度存在しています。

エ アフターコンベンション・ユニークベニュー※環境

周辺は官庁舎やマンションが多く、アフターコンベンションが楽しめる施設は少ないですが、繁華街（すすきの）はタクシーで約 10 分の距離に位置します。

また、市民の憩いの場や年間を通して様々なイベント会場として利用される「大通公園」に近接しており、大通公園の西端（計画候補地から徒歩約 5 分）には国の登録有形文化財に選定され、芸術文化の情報発信や札幌の歴史等を感じることのできる「札幌市資料館」も位置しています。その他、北海道立近代美術館や北海道知事公館など、文化的施設も立地しています。

オ 隣接施設との連携可能性

東側道路を渡った位置にあるロイトン札幌と連携することで、宴会・宿泊・飲食機能を担うことができます。また大規模 M I C E においては、札幌プリンスホテルや札幌市教育文化会館と連携することで、M I C E エリアを形成することができます。

【主なコンベンション施設】

名称	主な諸室
さっぽろ芸術文化の館	ニトリ文化ホール 2,300 席 など
札幌市教育文化会館	大ホール 1,100 席 など
ロイトン札幌	ロイトンホール 1,607 m ² など
札幌プリンスホテル	大宴会場 1,000 m ² など

カ 周辺土地利用への影響

周辺には官庁やマンションなどが多く、民間所有の未・低利用地は少ない状況です。

※ **ユニークベニュー** 会議やレセプションで利用することにより特別感や地域の特性を演出できる個性的・独創的な会場のこと（例：大倉山ジャンプ競技場、豊平館 など）。

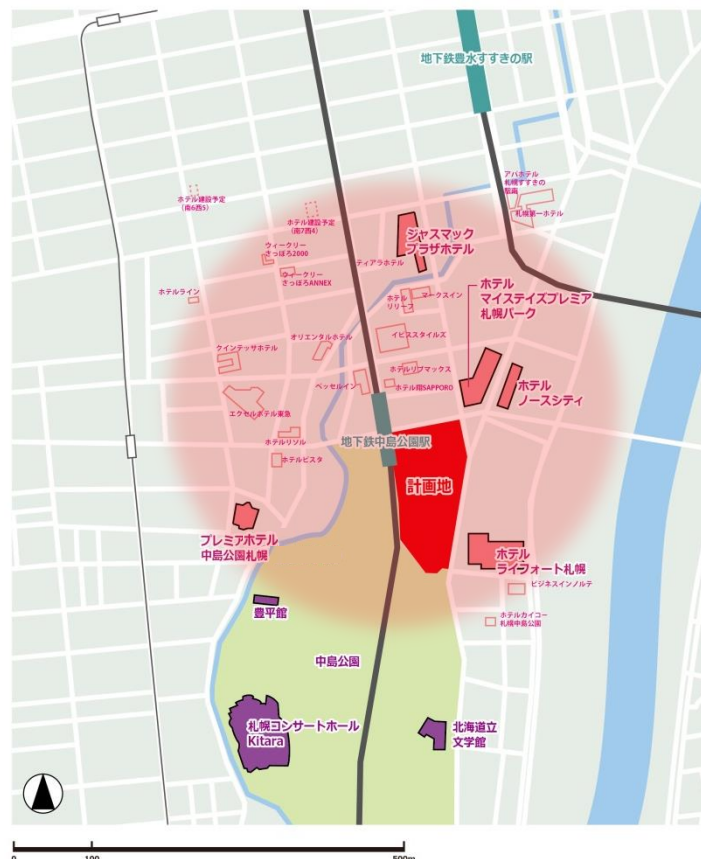
(2) 中島公園駅周辺地区

① 敷地概要

- 所在地 中央区南 10 条西 3 丁目
- 敷地面積 20,038 m²
- 基準建ぺい率 80%
- 指定容積率 400%
- 用途地域 商業地域
- その他地域地区 準防火地域、集合型居住誘導区域、都市機能誘導区域（都心）
景観計画区域、緑保全創出地域種別：業務系市街地
- 日影規制 西側隣地が第一種住居地域のため規制あり
- 高さ制限 60m 高度地区
- 接道道路 北側：幅員 25.00m
交差点部：幅員 20.00m
東側：幅員 20.91m

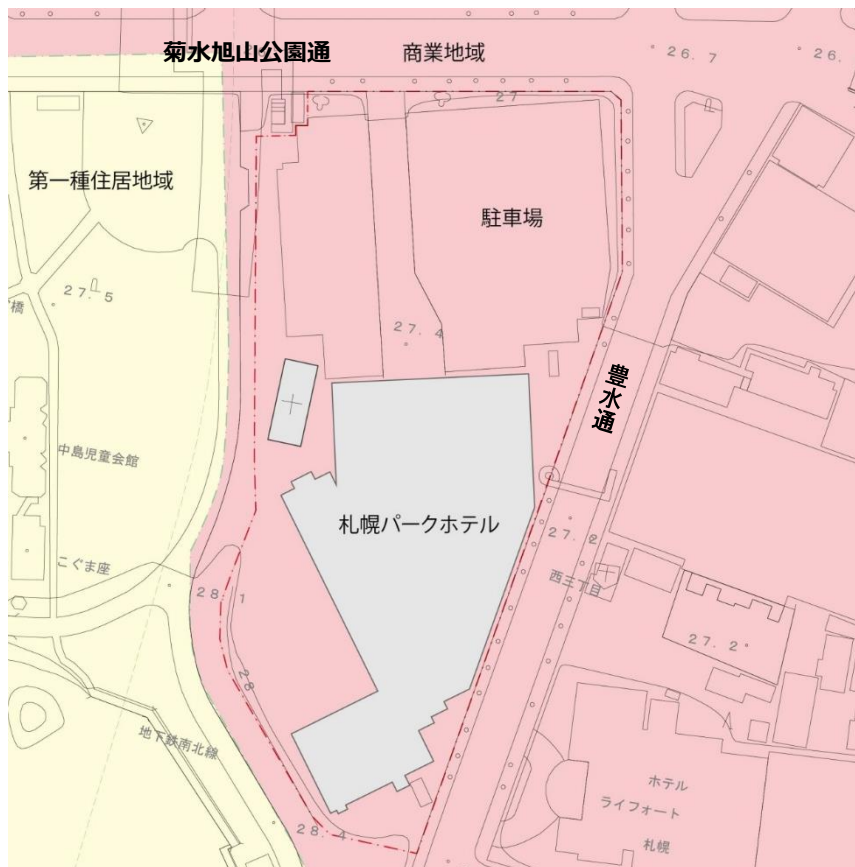
○ ハザードマップ

液状化	液状化発生の可能性が低い
洪水	計画規模：深さ 0.5m～3.0m未満の区域 想定最大規模：深さ 0.5m～3.0m未満の区域 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）に近接
地震	最大の震度 6 弱



【周辺施設図】

* 駅の周囲半径約 300m（おおよそ徒歩 10 分の範囲）を対象区域として設定



【現状配置図】

② 立地条件

札幌パークホテルは、札幌駅前通の南端に位置する中島公園に隣接しています。公園近隣を活かすとともに、公園と調和した施設とする必要があります。

現在のホテル及び駐車場敷地を活用することにより、ホテルと会議場棟の一体的な整備が可能です。なお、現在、当該敷地は民有地であるため、整備手法について検討が必要です。

③ 交通動線

当該敷地北側の菊水旭山公園通は札幌駅前通及び豊水通が交差しており、いずれも交通量が多い状況です。敷地内への車両の進入にあたっては、菊水旭山公園通の西方向、及び、創成川通北方向からのアクセスの場合、右折が必要になるなど、交通動線については慎重に検討する必要があります。

④ 周辺環境

ア アクセス

- ・ 新千歳空港からのアクセス
 空港連絡バス〈所要時間約 80 分〉
 * 乗車地：「あすか信用組合前」、降車地：「南 9 条通り」
 JR-地下鉄（南北線）乗換〈所要時間約 41 分〉
- ・ 中心駅（札幌駅）からのアクセス
 タクシー〈所要時間約 10 分〉
 地下鉄〈所要時間約 5 分〉
- ・ 最寄駅からのアクセス
 地下鉄南北線「中島公園」駅の出入口正面（地下接続も可能）

イ 宿泊機能

札幌パークホテルは現状、216 室の客室数となっています。

その他、中島公園駅周辺地区では、シティホテル及びビジネスホテル等を含め、3,540 室（内、スイート9 室程度）の客室数が確保できます。

ウ 飲食

周辺に立地するホテル内に併設されたレストランやカフェの他、中島公園内に位置する「札幌コンサートホール Kitara」での飲食も可能です。その他、周辺には飲食店が一定程度存在しています。

エ アフターコンベンション環境

当該地域は繁華街（すすきの）に近接しており、徒歩でのアクセスが可能です。また、中島公園は、藻岩山を背景とした水と緑が豊かな憩いの場として親しまれており、札幌の美しい自然環境を体感できる空間として、外国人観光客からも人気が高い場所となっています。公園内には「菖蒲池」の水辺や、「豊平館」「八窓庵」といった国の重要文化財、音楽専用ホール「Kitara」、「天文台」、「北海道立文学館」などが点在しています。

オ 隣接施設との連携可能性

中島公園駅周辺地区では、M I C E 施設と札幌パークホテルが一体として整備されることが想定されるため、宴会・宿泊・飲食機能を一つの建物で担うことが可能です。参加者にとって、催事中に建物外部に出る必要がないため利便性の高い施設となります。また、近隣には宴会場の機能を有するホテルも数多く位置していることから、それらの施設と連携することで、さらに大規模な M I C E にも対応することができます。

また、催事等の誘致に当たっては、パークホテル等による協力等が期待できます。

しかし、施設を一体整備（合築）した場合、大規模修繕や用途転用等の際に調整が必要となります。

【主なコンベンション施設】

名称	主な諸室
札幌パークホテル	パークホール 1,165 m ² など
ホテルライフオーブ札幌	ライフオーブホール 877 m ² など
ホテルノースシティ	金柔 292 m ² など
プレミアホテル中島公園札幌	ソレイユ 291 m ² など
ジャスマックプラザホテル	ザナドゥ 746 m ² など

カ 周辺土地利用への影響

敷地周辺には未利用地が多数存在していることに加え、近年、新規のホテル建設等の動きも見られることから、今後、新たな民間投資が期待できるエリアです。

(3) 利用者の意向比較

関係団体や会議の主催者、事務局、PCO などに対し、二つの候補地についてヒアリングを行った結果、以下のようなご意見をいただきました。

<ヒアリング結果整理>・・・中島公園駅周辺地区が良いとする意見が多かった。

メリット

■ 西 11 丁目駅周辺地区	■ 中島公園駅周辺地区
<ul style="list-style-type: none"> ○大規模なM I C E の開催実績が豊富であり、当該地域のホテルは、M I C E 対応の熟練度が高いので安心感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホール・展示場・会議室・ホテルとの一体整備になるのであれば、とてもよい。 ○ホテルとの一体整備は、VIP が参加する際の警備という観点からも大きなメリットである。 ○緑が美しい中島公園に隣接しているというロケーションは素晴らしい。 ○地下鉄駅直結となれば、とてもよい。 ○当該地域には、豊平館など、ユニークベニューが豊富である。 ○距離的に、札幌コンベンションセンターとの連携も視野に入れやすい。

デメリット

■ 西 11 丁目駅周辺地区	■ 中島公園駅周辺地区
<ul style="list-style-type: none"> ○さっぽろ駅からの地下鉄移動の場合、乗り換えが不便である。 ○地下鉄駅直結ではないので、天候（雨・雪）の影響がある。 ○周辺に飲食店やホテルが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該地域では、大きな学会を開催した実績に乏しい。 ○大規模なM I C E を開催した際に、中島公園駅のキャパシティに不安がある。 ○他のM I C E 開催エリアとの距離がある。

(4) 各候補地における想定される施設概要の比較

それぞれの候補地において、3 - 6 の基本方針に沿った整備を行った場合の施設の概要について、大まかな想定内容を比較します。

なお、本計画内で整備場所とした候補地については、第 5 章以降でさらに詳細な検討を進めていくこととします。

	西 11 丁目駅周辺地区	中島公園駅周辺地区
施設規模	約 39,000 m ²	約 26,000 m ² + 共用部
機能 (主な相違点)	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食機能として、レストラン及び厨房が必要 ○地下鉄駅との接続が難しく、屋外移動が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホテルとの一体整備により、会議室やレストランなど、必要な機能の一部をホテル側で担うことが可能 ○地下鉄駅との接続や中島公園の一部整備など、まちづくりに関する周辺整備について、パークホテルの按分負担による実施が可能
想定される整備手法	直接建設方式又は P F I 方式	再開発事業
整備スケジュール	2024 年供用開始	2025 年供用開始
想定事業費	約 270 億円	約 280 億円
概算ランニングコスト	約 8.2 億円	約 6.7 億円

4-4 整備場所の決定

これまでの比較検討を下表に整理します。

	西 11 丁目駅周辺地区	中島公園駅周辺地区
まちづくりの観点	○ 第 2 次都心まちづくり計画では、集客交流機能の向上が指針として示されている	○ 第 2 次都心まちづくり計画では、都市観光・交流の場の強化が指針として示されている
施設整備要件	△ M I C E 開催に必要な機能を施設単体で整備する必要がある	○ 札幌市が必要とする機能の一部をホテル棟側で担うことが可能
	△ 隣接施設との連携による相乗効果の可能性はある	○ ホテルとの一体整備による利便性の向上や相乗効果等が見込まれる
エリア環境	△ 周辺の宿泊機能：1,571 室	○ 周辺の宿泊機能：3,540 室
	△ 観光客に人気があり、札幌の都心部を代表するスポットである大通公園に近接しているが、周辺を官公庁やマンション等に囲まれている	○ 緑豊かで外国人観光客に人気である中島公園の隣に位置し、札幌の美しい自然環境を体感することができるとともに、一部整備が可能で、更なる魅力向上が見込める
施設運営	○ 単独整備であるため、大規模修繕や用途転用などに柔軟に対応できる	○ 合築によるスケールメリットにより、維持費が低減できる可能性があるほか、催事の誘致等に当たり、パークホテル等による協力等が期待できる
	×	×
交通アクセス	×	○ 地下鉄さっぽろ駅からの乗換は不要
	△ 西 11 丁目駅から徒歩 5 分だが、屋外移動が必要	○ 中島公園駅と地下接続が可能であり、その場合、新千歳空港から屋外移動が不要
コスト比較	○ 想定事業費：約 270 億円	△ 想定事業費：約 280 億円
周辺開発の可能性	△ 既に官公庁やマンション等が数多く立地しており、民間所有の未・低利用地が少ない	○ 民間所有の未・低利用地が多く、また新規ホテルの建設需要もあることから、今後の民間投資の誘発・促進が期待できるなど、すすきの地区のまちづくりに資する
供用時期	○ 最短で 2024 年度の供用開始	×
利用者意向	△ 過去の大規模 M I C E 開催実績を評価する意見があった一方、札幌駅及び最寄駅からのアクセスが不便である等の声が多い	○ ホール・展示場・会議室・ホテルの一体整備や地下直結の場合のアクセス性、中島公園隣接という立地に評価が集まった

上の表のとおり、西 11 丁目駅周辺地区は想定事業費や供用開始時期については有利であるものの、中島公園駅周辺地区は、アクセス性や周辺の宿泊機能の面に加え、新 M I C E 施設の整備を契機とした周辺の民間投資の促進の可能性も期待できること、さらには、共同事業による相乗効果が見込めるなど多数の点で有利であることを評価し、「中島公園駅周辺地区」を新 M I C E 施設の整備場所とします。

第5章 施設のコンセプト等

5-1 施設のコンセプト

「自然×人×知」が織りなす札幌MICE — 新しいアイデアの出発地 —

札幌は、食、文化芸術、スポーツなど、多様な魅力があるほか、利便性の高い都市機能やゆとりある都市空間と、四季折々に変化する豊かな「自然」とが共存し、訪れる方が快適に過ごすことのできる環境を有していることが大きな魅力の一つです。

また、北海道大学や札幌医科大学など学術研究機関の集積による多くのキーパーソンの存在や、IT・クリエイティブ、健康福祉・医療等の産業分野が有する強みなど、豊富な「人」や「知」の存在も、札幌でMICEを開催する際の魅力の一つです。

新MICE施設は、それらの魅力が集まり、相乗効果を発揮することで、想像力や感性が引き立てられる空間です。

世界中から集まる人々の創造力を高め、発想やひらめきを促し、これまでにはない、ここ札幌だからこそ生まれる、札幌MICE発の新たな発見やアイデアが生まれる場を目指します。

5-2 施設の整備方針

MICEをこれまで以上に誘致・開催するためには、必要な規模・機能を有する施設を整備することはもとより、上述の札幌らしい魅力を生かし、主催者等の開催意欲を高めることも重要です。また、これらの魅力がMICE参加者等を通じて世界に伝わることにより、札幌のブランド力の向上にも資するものと考えられます。

加えて、MICEの誘致・開催の前提として、市民の理解や協力が大変重要であることから、市民生活の質の向上に資する整備を進めます。

上記を踏まえ、新MICE施設の整備方針を以下のとおり定めます。

- **札幌のMICE誘致・開催を先導する、必要な機能を備えた施設**
- **政府系国際会議等にも対応できる、質の高い施設**
- **札幌駅前通南端の拠点的交流空間の中核として、周辺のまちづくりを先導する役割を担うほか、にぎわいを創出するなど、拠点性の向上に資する施設**
- **中島公園との一体性・連続性や、藻岩山への眺望など、周辺環境を生かした施設**
- **地下鉄駅へのアクセス性の向上や魅力的な雰囲気や気軽に憩えることなど、公園利用者や地域住民等の利便性の向上に資する施設**
- **災害等の発生に備えた、地域の防災に資する施設**



＜施設イメージ＞

第6章 施設計画

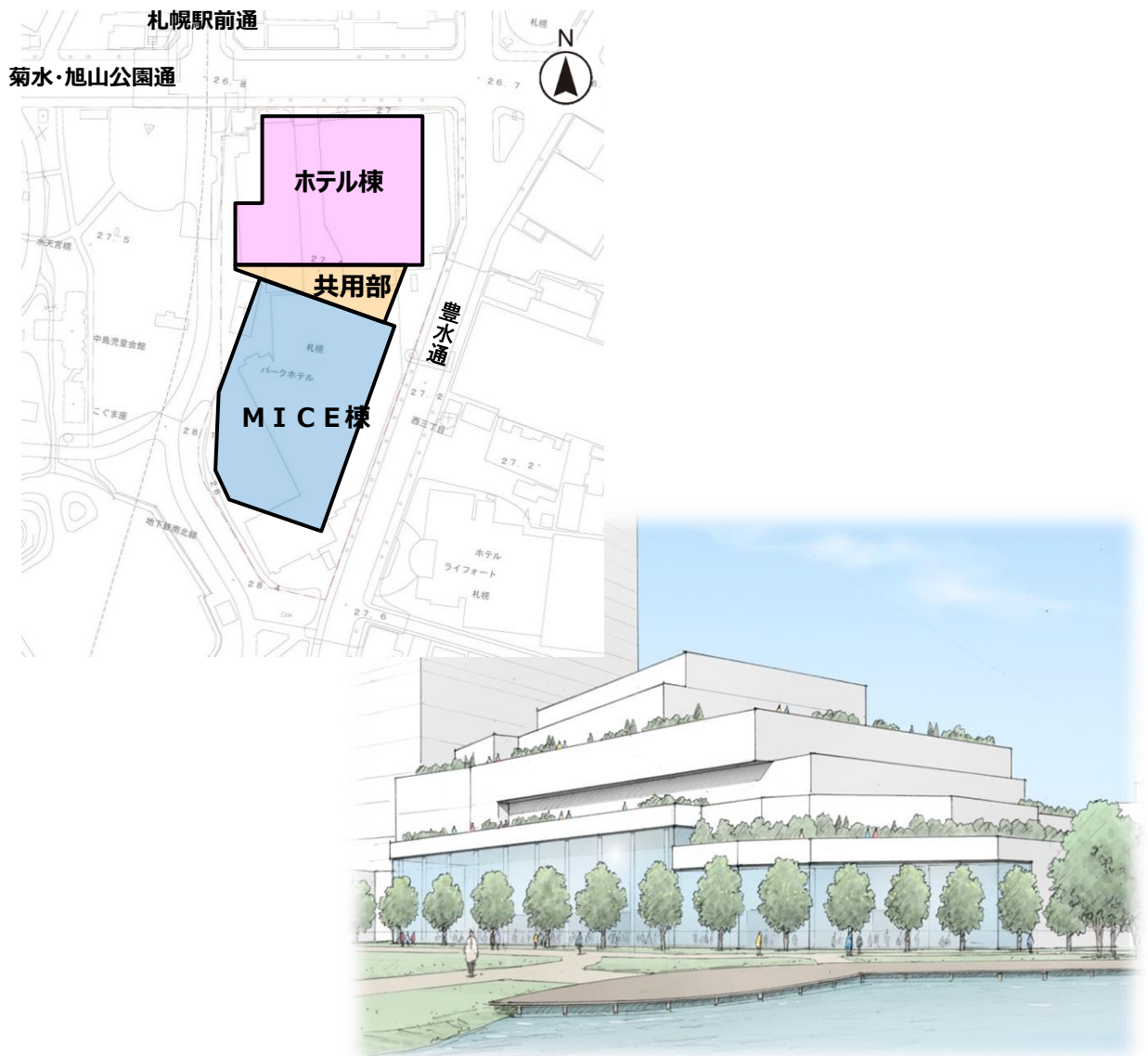
中島公園駅周辺地区での整備については、4-1で記載したとおり、パークホテルとの共同事業となります。この計画では、そのうち、新MICE施設（共用部含む）部分の施設計画について整理します。

6-1 配置計画

(1) 配置計画

敷地内の配置計画については、新MICE施設（以下「MICE棟」という。）は低層、建替えられる札幌パークホテル（以下「ホテル棟」という。）は高層となる見込みであることから、中島公園への圧迫感の軽減などに配慮し、ホテル棟を敷地北側に、MICE棟を敷地南側に配置します。これにより、メインホールや展示場のホワイエ空間などから、藻岩山や中島公園のみどりへの眺望を確保することができます。また、屋上緑化等を施すことにより、中島公園と施設の一体性を演出することができます。

ホテル棟とMICE棟の間には、共用部となるエントランス空間を配置します。札幌駅前通や中島公園駅、豊水通からアプローチがしやすいものとするともに、敷地内貫通通路により、札幌駅前通や中島公園駅から豊水通に至る回遊動線を設ける計画とします。これにより、施設利用者の周辺への回遊性向上や地域住民の中島公園駅へのアクセス向上を図ります。加えて、中島公園利用者等がMICE棟を利用しやすくなることなどにより、施設周辺のにぎわいの創出を目指します。



<施設イメージ>

6-2 諸室整備計画

施設全体の規模や主な諸室の規模は下表のとおりです。

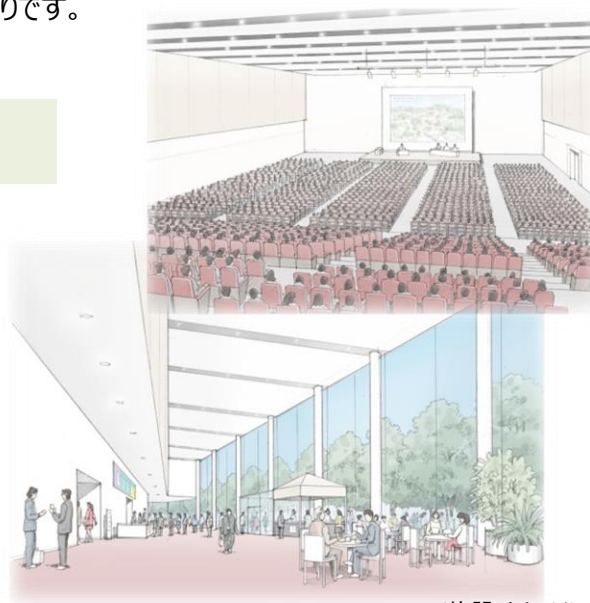
【延床面積等】

【専有面積】 25,500 m²

【共用部面積】 19,400 m²

【主な諸室の規模等】

	室名	面積 (m ²)	室数
ホール	メインホール	約 2,000	1 室
	ホワイエ	約 700	
展示場	展示場	約 4,000	1 室
	ホワイエ	約 1,000	
会議室	中会議室	約 800	2 室程度
	小会議室	約 1,200	5 室程度
	ホワイエ	約 700	



＜施設イメージ＞

*現時点で必要な諸室であり、今後、設計等や共同事業の協議等を進め、詳細な検討を行うこととします。

その他諸室も含め、室ごとの必要な機能や仕様、留意事項などについて以下に示します。

(1) メインホール

メインホールは、無柱空間で平土間形式とするとともに、移動間仕切り等を設置し、多様な使い方に対応できる計画とします。なお、ホテル棟の会議室（宴会場）等と同じフロアに設けることで、利用しやすい計画とします。

(2) 展示場

展示場は、無柱の大空間を確保するとともに、十分な床荷重を持った床とします。また、搬入・搬出を行いやすい地上1階とし、搬出入車両が直接出入りできるような出入口を設けるなど、催事の設営をスムーズに行えるような計画とします。さらに、一定程度の興行等の開催も想定した機能を整備します。

(3) 諸会議室

会議室は、大小様々な室を設けるとともに、移動間仕切りで分割することで、様々な規模の利用に対応できるようフレキシブルな計画とします。なお、会議室はホテル棟とM I C E棟を合わせて、望ましい規模を確保するものとします。

(4) ホワイエ

ホワイエ空間は、メインホールや展示場、会議室の利用の際に必要な十分な溜まりの空間とします。

(5) その他

＜エントランス＞

エントランスは開放的な空間とするとともに、大規模催事の際に十分な縦横動線を確保します。

＜パントリー＞

パントリーは、レセプションの開催等に対応できるよう、各フロアに必要な規模・機能を確保するものとします。

<トイレ>

トイレは、男女とも十分な個数を配置し、催事開催時の集中利用でも対応できるようにします。なお、催事の内容によっては、女性用トイレが不足することも考えられることから、男女の個数を柔軟に調整できるものとします。また、興行場法が適用される場合は、同法の規定を満足したものとします。

<倉庫>

椅子や机などの備品を収納できる十分なスペースを確保します。

<クローク>

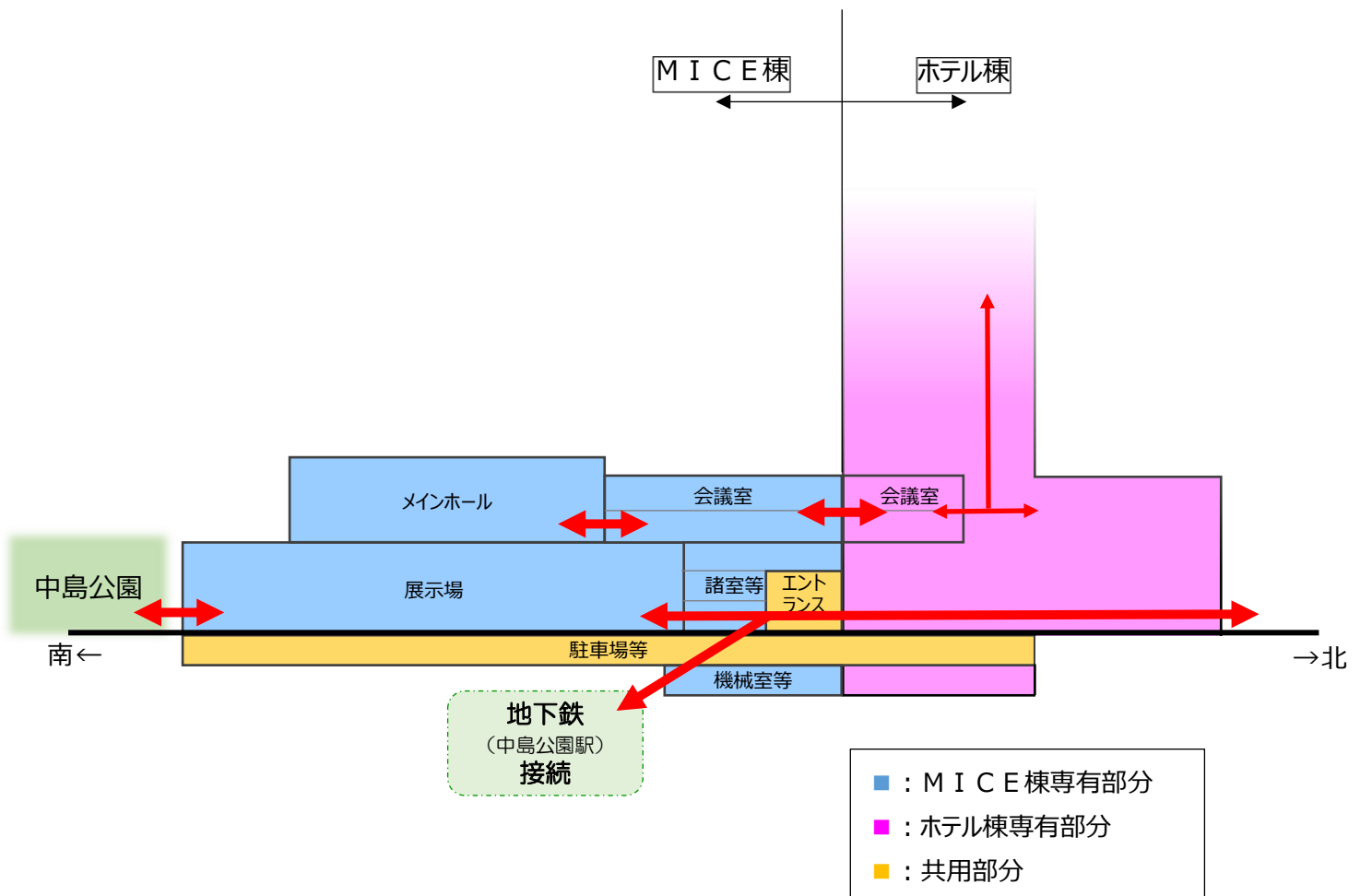
来場者の需要に適切に対応できるよう、常設・仮設も含め、必要なスペースを確保します。

<その他>

札幌市避難場所基本計画を踏まえ、M I C E 棟を避難場所とし、必要な諸室等の詳細については、今後、検討することとします。

(6) 断面構成イメージと動線イメージ

南北方向の断面構成イメージと動線イメージを以下に示します。

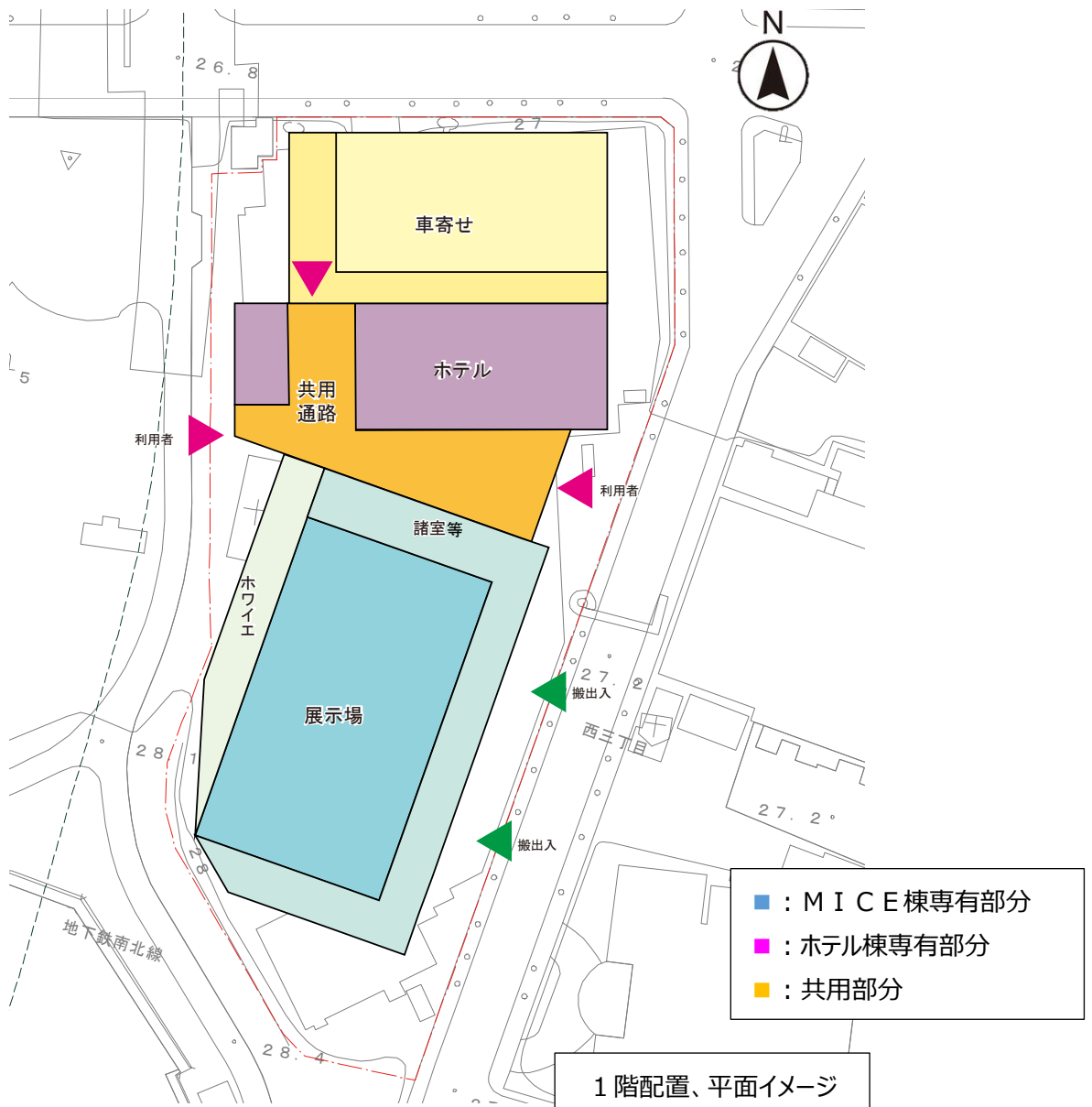


6-3 平面計画イメージ

1階は、エントランス（共用部）、展示場等を配置します。出入口は、公園利用者のアクセス動線に対して西側、札幌駅前通からのアクセスに対し北側、及び、豊水通側の東側に設けることで、回遊性を確保しアプローチしやすいようにします。また、エレベータやエスカレータを適切に配置し、メインホール等上層階の利用の際にスムーズに移動ができるように配慮します。

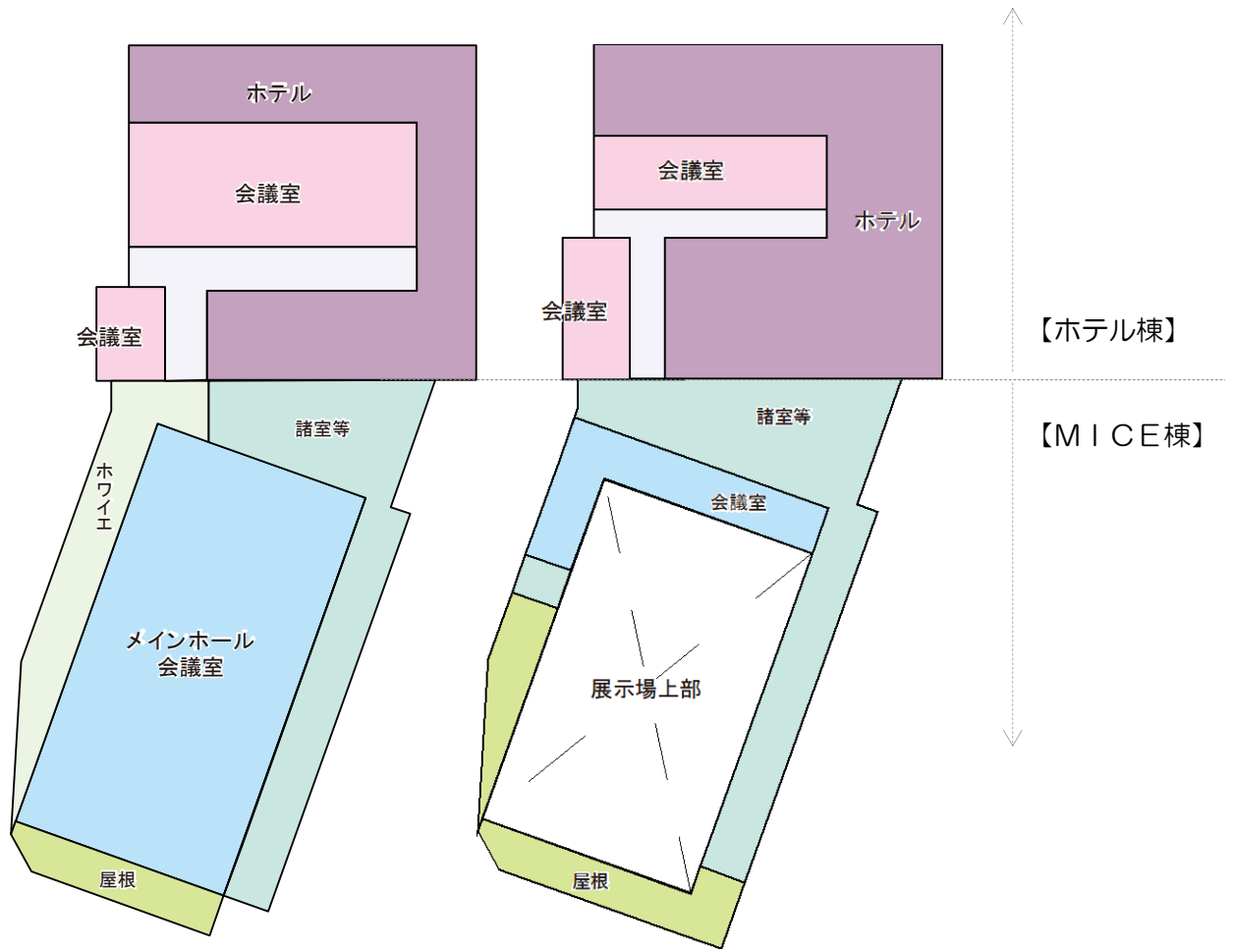
展示場のホワイエを中島公園側に配置し、公園への眺望を確保します。また、ホワイエには中島公園に直接出入りできる出入口を複数配置することで、施設と公園が一体的に利用でき、賑わいを創出できる計画とします。また、東側には直接展示場に搬出入できる動線を確保し、スムーズに催事が行えるようにします。

さらに、敷地外の公園部分についても、広場や園路の整備、水辺の魅力創出などといった整備を行うことで、施設と中島公園の連続性等に配慮した計画とします。



メインホールは、展示場階（1階）に併置できないことから、展示場の上階に配置します。

会議室はメインホール階及びその上下の階にまとめて配置し、各会議室間の移動がしやすいように配慮します。また、これらをホテル棟の会議室と同じフロアに設けることで、相互利用しやすい計画とします。



メインホール階イメージ

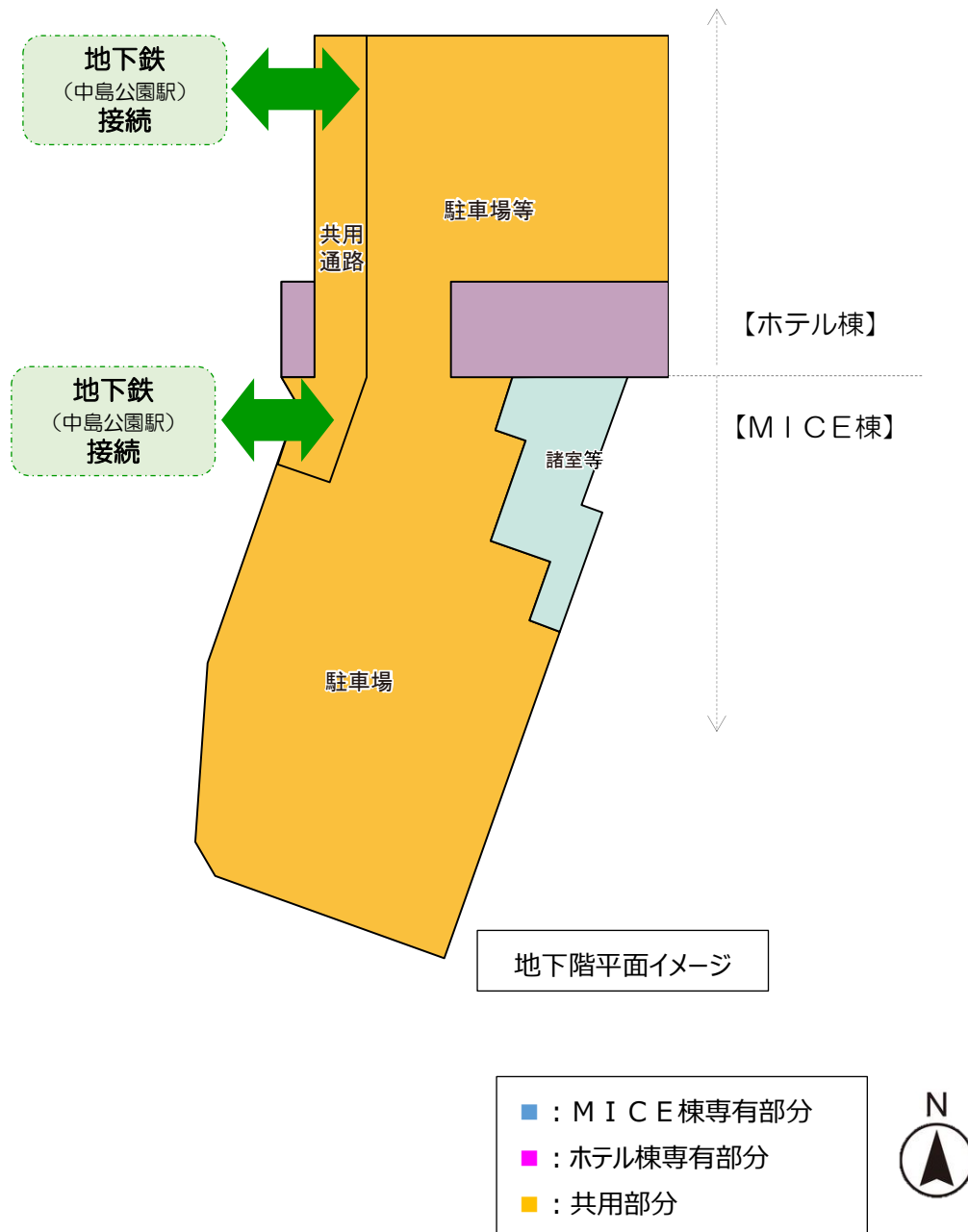
会議室階平面イメージ

- : M I C E 棟専有部分
- : ホテル棟専有部分
- : 共用部分



地下階は、駐車場（共用部）を設けるとともに、中島公園駅と接続した共用通路を設け、地下鉄駅から風雨・降雪にさらされずにアクセスできる動線を確保します。

駐車場については、M I C Eの主催者・出演者に必要な駐車場台数を確保します。また、荷捌きスペースを適切に配置し、スムーズな搬出入に配慮します。



第7章 事業計画

7-1 事業手法の検討及び概算事業費

(1) 事業手法の検討

① 整備手法の検討

この共同事業については、整備場所の地権者であるパークホテルから、再開発事業を前提とした事業提案があったところです。当該整備場所は市有地ではないため、事業手法の決定にあたっては、土地所有者との合意が必要であることから、札幌市は、当該提案を踏まえ、整備した建築物の内、M I C E棟の床に該当する分の費用を支払うことで、新M I C E施設を取得することとします。

② 運営手法の検討

運営手法については、「指定管理者制度」又は、「公共施設等運営権制度（以下「コンセッション」という。）」による手法が考えられます。これら手法について、今後「PPP/PFI[※] 導入可能性調査」を実施し、詳細検討を行ったうえで決定することとします。

【[参考]コンセッションの概要】

運営手法	概要
コンセッション (公共施設等運営権制度)	PFI法に基づき、所有権を有する公共施設等の運営権を民間事業者に設定し、料金設定等を含めた当該施設の運営等を担わせる手法。民間事業者は、当該運営権をもとに、抵当権の設定や資金調達が可能となる。

【指定管理者制度とコンセッションの比較】

	指定管理者制度 [※]	コンセッション
根拠法	地方自治法	PFI法
対象	地方自治法上の公の施設 (国の施設は適用対象外 所有権の帰属は必須ではない)	所有権を有するPFI法に定める 公共施設等のうち利用料金を徴収するもの (庁舎や留置場、道路、河川等の利用料金を 徴収しないものは対象外)
抵当権の設定	抵当権の設定は想定されていない	運営権は物件であり、抵当権の設定が可能
地位の移転	不可 (指定管理者の指定の取り消しと新たな 指定が必要)	可能 (ただし、条例に特別の定めがある場合は議 会の承認を要する)
利用料金の収受	事業者の収入とすることが可能	
利用料金の設定	地方公共団体の承認が必要	公共施設等の管理者等への届出が必要
費用の徴収	利用料金が経費を上回る場合など、 利益の一部を市に納付する仕組みを 採用することが可能	事業期間当初に民間企業からの 初期投資（運営権対価の支払い）が 行われる
使用許可	指定管理者が行うことが可能	公共施設等運営権者が行うことはできない (行わせようとする場合、指定管理者制度と の併用が必要)

※ **PPP/PFI** PPP (Public Private Partnership) は、公共施設の整備等において、民間の創意工夫等を活用する官民の連携によって、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るものであり、官民連携全般を指し、PFI (Private Finance Initiative) は、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金、経営力及び技術力を活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を行うものであり、PPP の一類型。

※ **指定管理者制度** 公の施設において、民間事業者等を指定管理者として指定し、当該民間事業者等が利用料金の収受や施設の仕様許可等を含めて、包括的に施設を管理・運営する制度。

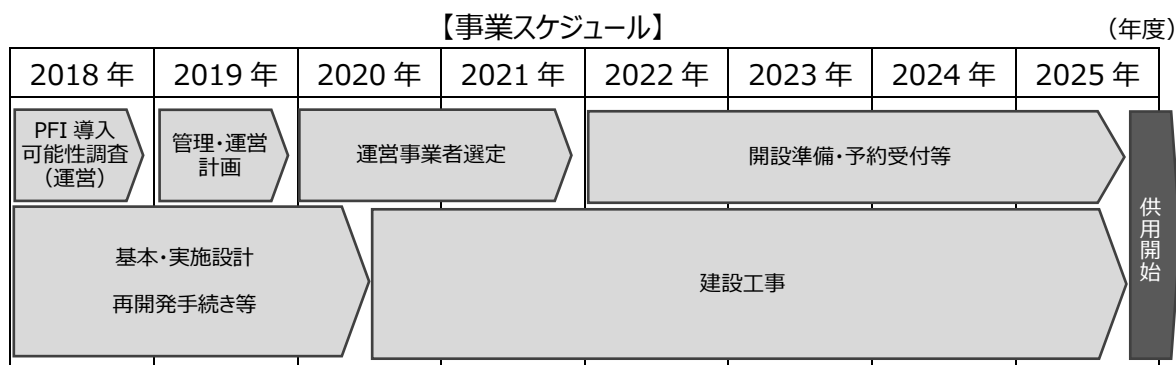
(2) 整備事業費

概算総事業費：約 280 億円

- * 当該事業費は、現時点での概算額であり、今後、設計等を受け、変更になる可能性があります。
- * 興行等に必要な防音機能の整備費を含みます。
- * その他、什器・備品等の費用が発生する可能性があります。

7-2 事業スケジュール

施設整備に向けた今後のスケジュールを示します。



7-3 市内他施設の利用状況と棲み分け

(1) 市内他施設の利用状況

市内他施設について、利用状況の調査を行いました。各施設とも、主要諸室については概ね高い稼働率を確保しています。各施設で行われている催事の概要は以下のとおりです。

① 会議系施設

- ・札幌コンベンションセンターの大ホールは、学会の利用が一番多く、次いで展示会利用が多い状況。
- ・ちえりあの大ホールでは 430 名程度までのコンサート・演劇利用が大半を占めている。また、大研修室や講堂では概ね 100～200 人程度の会議等の利用が多い。

② 展示系施設

- ・アクセスサップ口では展示会利用が 100%を占めている。

③ ホール系施設等

- ・ニトリ文化ホールでは、2,000 名以上のコンサート・ライブ利用が一番多く、次いでミュージカルなどが行われている。
- ・市民ホールでは、1,500 名までのコンサート・ライブ利用が一番多く、次いでアマチュア団体の演奏会などが行われている。
- ・札幌教育文化会館では、1,100 名までのコンサート・ライブ利用が一番多く、次いでミュージカル・オペラや合唱・パレエなどが行われている。

(2) 規模、用途による棲み分け

新 M I C E 施設と市内他施設について、規模、用途による棲み分けを整理しました。新 M I C E 施設の主なターゲット（下表「*」部分：学会等（3,000～10,000 名）、インセンティブツアー（1,000～3,000 名）、イベント（2,000～4,000 名））については、競合する市内他施設がないものと考えられるため、市内他施設に影響を与えることなく、それらの催事を新 M I C E 施設で行う

ことが可能となります。

また、主なターゲット以外（下表網掛け部分）については、現在の各施設の稼働率が7～9割と高い率で推移していることに加え、各催事の需要も、2026年頃には1～2割程度増加しているものと予測されることから、立地や利用料金の差、車利用の有無などの要素も踏まえ、棲み分けがなされるものと考えられます。

【新MICE施設の需要イメージ】

新施設の主なターゲットであり、規模・機能の面で市内他施設では開催できない（難しい）もの

他施設でも可能な規模だが、高稼働率のため申込みを受けられず、機会損失が生じているもの

新MICE施設で開催！

【規模、用途による棲み分け】

	1,000名	2,000名	3,000名	4,000名	5,000名	10,000名
M ミーティング他	参加人数					
企業の社内会議やセミナー、説明会、研修会等	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 市内ホテル等 東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター） </div>					
I インセンティブ	参加人数					
企業等のインセンティブツアーのレセプション等	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 * 市内ホテル、郊外のホテル等 </div>					
C 学会・総会・大会	参加人数					
学会	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 * 北大 東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター） 市内ホテル等 </div>					
学会ポスターセッション 学会併催展示会	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 東札幌エリア 市内ホテル等 </div>					
総会・大会	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 東札幌エリア（コンベンションセンター、産業振興センター） 市内ホテル等 </div>					
E 展示会	会場面積					
総合展示会見本市 業界展示会・見本市 企業販促展示会 一般招待即売会 フリーマーケット	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 市内展示会場、アリーナ等 ・札幌ドーム（約14,500㎡） ・つどーむ（札幌市スポーツ交流施設） 約11,500㎡ ・アクセスサッポロ（札幌流通総合会館） 5,000㎡ ・きたえる（北海道立総合体育センター） 約4,000㎡ </div>					
E イベント	参加人数					
クラシックコンサート等	札幌コンサートホール					
舞台芸術、演劇、ポップス、演歌、伝統芸能等	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 * 札幌市民交流プラザ 市民ホール 札幌教育文化会館 </div>					
スポーツ大会、イベント（屋内）	<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 新MICE施設 市内展示会場、アリーナ等 ・札幌ドーム 約14,500㎡ ・つどーむ（札幌市スポーツ交流施設） 約11,500㎡ ・きたえる（北海道立総合体育センター） 約4,000㎡ </div>					

7-4 施設開業後の需要予測と想定稼働率

(1) 需要予測と想定稼働率の考え方

新MICE施設の需要予測と想定稼働率については、以下の考え方により各催事の件数を積み上げ、算出しました。

(考え方)

- ・施設の主なターゲットとなる用途、規模（市内他施設と競合しない用途、規模）については、新たなニーズ分を新MICE施設で開催する。
- ・主なターゲット以外（市内他施設と競合する規模、用途）については、各施設の稼働率が概ね7～9割と高い率で推移していることを踏まえ、また、3-1で予測した将来予測結果より、各催事も、2026年頃には現時点と比べて一定程度増加しているものと考えられることから、増加分の一部を新MICE施設で開催する。
- ・芸文館で開催していたコンベンション系の催事は新MICE施設に移行するものの、イベント関係は札幌市民交流プラザに移行する。
- ・中小の会議室については、市内会議施設での稼働率や3-1で予測した将来予測結果を踏まえ、市内会議施設での総会議室使用日数について、一部増加した場合の需要を新MICE施設で開催する。
- ・冬季における札幌での開催ニーズが低いと思われる催事については、その影響を見込む。

(2) 想定稼働率

・メインホール	: 81.3%
・展示場	: 64.8%
・中小会議室	: 64.0%

7-5 ランニングコスト

(1) 施設維持費及び運営事業費

札幌コンベンションセンターの指定管理業務うち、施設維持費及び運営事業費を参考に、新MICE施設では大空間が多いことから、その分を補正のうえ、算出を行いました。

- ・施設維持費及び運営事業費

674 百万円/年

(2) 利用料金収入

利用料金収入の算出にあたっては、利用料金について、札幌コンベンションセンターと価格面での棲み分けを行うことを念頭に、国内他都市のMICE施設の利用料金を参考として仮設定しました。なお、利用料金の設定は施設の運営検討を行う際に詳細な検討を行うこととします。

その利用料金と7-4で算出した稼働率を用い、利用料金収入等の算出を行いました。

- ・利用料金収入等

762 百万円/年

(3) 差引き収支予測

(1)、(2)より、差引きの収支予測は以下のとおりです。

88 百万円/年

7-6 経済波及効果

経済波及効果（生産誘発額、雇用誘発効果、税収効果）について、3-3-(2)に記載した成果指標を達成した場合の経済波及効果について、「MICE経済波及効果測定モデル」（国土交通省観光庁、平成26年3月）を用いて推計しました。

（単位：億円（雇用誘発効果は人日））

		生産誘発額	雇用誘発効果	税収効果
2016年 (全市)	コンベンション	84.5	144,670	0.9
	インセンティブツアー	35.2	103,102	0.4
	合計	119.7	247,772	1.3
2026年 (全市)	コンベンション	168.0	377,445	1.9
	インセンティブツアー	57.5	168,415	0.6
	合計	225.5	545,860	2.5
(うち新施設分)	コンベンション	86.0	193,959	0.9
	インセンティブツアー	15.1	44,164	0.2
	合計	101.1	238,123	1.1

【参考：道内及び全国への経済波及効果】

		生産誘発額	雇用誘発効果	税収効果
2026年 (道内)	コンベンション	218.3	579,165	2.4
	インセンティブツアー	77.3	187,928	0.8
	合計	295.6	767,093	3.2
2026年 (全国)	コンベンション	366.4	787,645	3.8
	インセンティブツアー	125.0	255,554	1.2
	合計	491.4	1,043,199	5.0

資料編（パブリックコメント実施結果）

1 実施概要

(1) 意見募集期間

平成 30 年（2018 年）3 月 16 日（金）～ 平成 30 年（2018 年）4 月 16 日（月）

(2) 意見提出方法

郵送、持参、ファックス、電子メール

(3) 公表資料

- ・（仮称）新 M I C E 施設整備基本計画（案）
- ・（仮称）新 M I C E 施設整備基本計画（案）概要版

(4) 資料の配布場所

- ・ 札幌市役所 15 階 観光・MICE 推進課、2 階 市政刊行物コーナー
- ・ 各区役所 総務企画課広聴係
- ・ 各区まちづくりセンター
- ・ 札幌国際プラザ
- ・ 札幌市ホームページ

2 パブリックコメントに対するご意見の内訳

(1) 意見提出者数

6 人（年代別：20 歳代 1 人、40 歳代 2 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人）

(2) 意見件数

36 件

(3) 提出媒体別意見提出者数

すべて電子メール

(4) 項目別意見数

ア 第 3 章 M I C E 施策の方向性	3 件	(8.3%)
イ 第 4 章 整備場所の決定	2 件	(5.6%)
ウ 第 5 章 施設のコンセプト等	5 件	(13.9%)
エ 第 6 章 施設計画	9 件	(25.0%)
オ 第 7 章 事業計画	8 件	(22.2%)
カ その他	9 件	(25.0%)

3 ご意見の概要と札幌市の考え方

以下では、お寄せいただきましたご意見の概要と本市の考え方を示しております。

第3章 MICE施策の方向性 (3件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
3-3 MICE誘致の目標等		
1	年に何回も開催されない大規模会議等に対し、多額の整備・維持費のかかる大型会議施設を整備するのは、市民負担が大きすぎるため、やめてほしい。	<p>MICE の開催は札幌の都市ブランド力の向上や観光を含めたりピーターの確保、都市としての学術レベルの向上だけではなく、市内への経済波及効果も非常に高いものです。</p> <p>札幌市では、「札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年10月）」でMICE誘致の強化を掲げ、「札幌市MICE総合戦略（平成27年4月）」、「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015（平成27年12月）」に基づき、MICE誘致活動を強化するとともに、大規模な国際会議等を積極的に誘致するため新MICE施設の整備にむけて調査・検討を重ねてきました。</p>
2	現在の事業費は市民負担が多く、市民理解を得られないのではないか。	<p>新MICE施設の整備については「7-6 経済波及効果」に示す効果や新施設の整備を契機として民間投資の誘発も期待でき、周辺地域のまちづくりにも資するものと考えています。</p> <p>また、新施設は公園利用者や地域住民等の利便性の向上に資する施設にするとともに、災害時には避難場所とするなど、市民生活の質の向上にも資するものとして整備していきます。</p>
3	国際会議開催件数の成果指標 241 件について、2016 年の福岡市の数値より低いことから、より高い目標を設定したほうが良いのではないかと。	<p>成果指標については、市内への経済波及効果に大きく影響する、国際会議参加者総数を主たる目標として設定し、その上で、目標件数を算出しています。</p> <p>国際会議参加者総数の成果指標については、「3-1 MICE市場の将来予測」を踏まえ、目標である「国際会議参加者総数について、東京、横浜市を除いた国内トップレベル」を達成できるよう設定しています。</p> <p>国際会議の参加者総数は、特に大きな国際会議の開催に影響されることなどから、各都市においても、年ごとの変動幅が大きいものとなっているため、成果指標の達成により、目標を達成できるものと考えています。</p>

第4章 整備場所の検討 (2件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
4-3 各整備候補地の状況比較		
4	催事の際、Kitara と新MICE施設の入退場が重なった場合など、地下鉄中島公園駅の混雑対策をどのように考えているか。	中島公園駅への影響に関する対応については、一度に駅構内へ人が流れ込まないように、施設内に滞留するスペースを検討するほか、運営面での対応方法等の検討も進めていきます。
4-4 整備場所の決定		
5	札幌駅からのアクセス性が高い中島公園駅周辺地区に新MICE施設を整備することについて賛成する。	-
第5章 施設のコンセプト等 (5件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
5-2 施設の整備方針		
6	整備場所は一等地であることから、単にMICE施設の整備だけでなく、周辺の環境整備も進めてほしい。	中島公園を含むその周辺は、さまざまな可能性を秘めており、新MICE施設の整備と合わせて公園内での魅力創出や周辺のまちづくりにも取り組んでいきます。
7	新MICE施設の整備と併せて、公園内を楽しむための飲食スペースの充実を図ってほしい。	新MICE施設については、「5-2 施設の整備方針」に記載のとおり、魅力的な雰囲気できれいに憩えることなど、公園利用者の利便性の向上に資する施設とすることとしています。
8	会議が無い日でも、市民や観光客がテラスや屋上などで楽しめるような開かれた施設にしてほしい。	
9	カフェやレストランなどを整備して、公園内でも飲食を楽しめるような工夫をしてほしい。	
10	新MICE施設は100年以上使用することが可能で、かつ、水力発電や太陽光発電など、自然エネルギーを多く活用した建築物としてほしい。	新MICE施設の整備にあたっては、札幌市の環境エネルギー施策に関する計画等を踏まえ、総合的な環境負荷の低減に配慮し、施設の長寿命化や省エネルギー・省資源、自然エネルギーの利用等について検討していきます。

第6章 施設計画 (9件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
6-1 配置計画		
11	高層のホテル棟を敷地北側に整備することにより、敷地周辺は閉鎖的となり、中島公園の美しさを感じられにくいものとなることから、高層であるホテル棟を近隣の空地に整備する等の配慮はできないか。	新MICE施設の整備にあたっては、中島公園や周辺の街並みへの配慮を検討していきます。 なお、ホテル棟の整備については、共同事業者のパークホテルで検討を進めていますので、いただいたご意見をパークホテルに伝えさせていただきます。
12	デザイン性を重視し、中島公園のそして札幌のシンボルとなるような、シンボリックでデザイン性の高い外観にしてほしい。	新MICE施設については、「5-2 施設の整備方針」に記載のとおり、質が高く、中島公園との一体性・連続性など周辺環境を生かした施設とすることとしています。
13	MICE施設の整備と併せて、こぐま座や児童会館、遊戯広場の土地活用について議論してほしい。	この計画では、公園部分についても、広場や園路の整備、水辺の魅力創出といった整備を行うこととしています。 ご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。
14	MICEの開催により、今後來場者数が増えるとなると、周辺交通への配慮が必要。	新MICE施設の交通計画については、交通解析等を行い、周辺の交通環境へ配慮した計画とします。
15	MICE施設への来場に関しては、極力公共交通の利用を促し、人に配慮した導線計画してほしい。	新MICE施設については、中島公園駅と接続し利便性を高めることなどにより、公共交通を利用しやすい施設となるよう整備していきます。
6-2 諸室整備計画		
16	新MICE施設は環境配慮の先進事例を目指すこととし、ホテル棟と分離出来るようにしてほしい。	新MICE施設の環境配慮については、札幌市の環境エネルギー施策に関する計画等を踏まえ、適切な措置を講ずるよう検討していきます。 なお、新MICE施設とホテルを一体的に整備することは利用者の利便性向上等が見込まれる他、札幌市が必要とする施設の機能の一部をホテル棟側で担うことが可能となるなど、メリットが大きいものと考えています。
17	災害等の有事にも5,000人を収容できるインフラを独立させた避難所設備を導入してほしい。	新MICE施設は札幌市避難場所基本計画を踏まえ、避難場所として位置付けることとし、収容できる人数や設備内容を含め、今後検討を進めていきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
6-3 平面計画イメージ		
18	公園利用者への圧迫感に配慮した施設計画とすべき。	高層となるホテル棟を敷地北側に、低層となるM I C E棟を敷地南側に配置するとともに、屋上緑化等による公園との一体性を演出することにより、中島公園への圧迫感の軽減などに配慮した計画としています。
19	静かな中島公園の隣に、騒々しい施設を整備することに反対。展示場は整備せず、また、4,000人規模のメインホールは3,000人規模に縮小すべき。	大規模な国際会議を誘致・開催するにあたっては、メインホール、会議室と展示場が一体となっていることが、重要な要素となることから展示場を整備することとしたものです。 また、メインホールの最大収容人数は、2,000人程度を想定しています。 なお、必要な防音機能の整備等により、「騒音規制法」を遵守するなど、周辺環境に配慮した施設とします。
第7章 事業計画 (8件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
7-1 事業手法の検討及び概算事業費		
20	PFI法という専門的な単語のみの記載は、不親切だと思う。	【注釈追記】 ご意見の趣旨を踏まえ、49ページに「指定管理者制度」「PPP/PFI」の注釈を追加しました。
7-3 市内他施設の利用状況と棲み分け		
21	新M I C E施設と札幌コンベンションセンターが上手く棲み分けられるなど、両方が活用されるような施策を実施してほしい。	札幌コンベンションセンターでは、主に市内・道内の中小規模の会議・研修や比較的小規模な国際会議が開催されている一方、新M I C E施設では、より国際的、全国的な大規模会議の開催や、機会損失が見込まれるものを開催することを想定しています。 また、新M I C E施設と札幌コンベンションセンターの同時活用により、さらに大規模なM I C Eの開催も可能になるなど、両施設の連携が欠かせないことから、今後、両施設をいかに連動させるか、その手法について検討していきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
7-3 市内他施設の利用状況と棲み分け		
22	<p>既存のコンベンションセンターや大型施設との棲み分けについて記載されているが、他の公共施設の年間稼働率や収支報告を一覧にまとめ開示してほしい。</p>	<p>他の公共施設の年間稼働率及び収支報告（2016年度）については以下のとおりです。</p> <p>【札幌コンベンションセンター】 年間稼働率：69.7% 収支：115,142千円</p> <p>【ちえりあ（生涯学習センター）】 年間稼働率：82.9% 収支：-12,787千円 （収支には貸室事業のほかソフト事業を含む）</p> <p>【アクセスサポロ】 年間稼働率：83% 収支：17,474千円 （収支は運営事業者（一財）札幌産業流通振興協会の一般正味財産増減額）</p> <p>【さっぽろ芸術文化の館（ニトリ文化ホール）】 年間稼働率：60.1% 収支：約44,000千円 （収支にはホテル部門を含む）</p> <p>【市民ホール】 年間稼働率：74.3% 収支：10,455千円</p> <p>【教育文化会館】 年間稼働率：81.9%（大ホール）、 収支：13,712千円</p> <p>【札幌ドーム】 年間稼働率：71.8% 収支：675,025千円</p> <p>【つどーむ（札幌市スポーツ交流施設）】 年間稼働率：99.1% 収支：38,311千円</p> <p>【きたえる（北海道立総合体育センター）】 年間稼働率：64% 収支：9,463千円 （収支は運営事業者（公財）北海道体育協会正味財産増減計算書内訳から北海道総合体育センター運営事業分）</p>

No.	意見の概要	札幌市の考え方
7-4 施設開業後の需要予測と想定稼働率		
23	札幌ドームやきたえーるがある中、稼働率を確保できるのか。	<p>稼働率については、「7-3 市内他施設の利用状況と棲み分け」「7-4 施設開業後の需要予測と想定稼働率」に記載のとおり、市内他施設では開催できないものや、機会損失が生じると想定されるものについて積み上げ、算出しています。</p> <p>なお、札幌ドームときたえーるについては、その規模や用途が大きく異なることから、共存が可能なものと考えています。</p>
7-5 ランニングコスト		
24	区役所等の整備も今後必要となってくると思われることから、新MICE施設は大幅な縮小、または、中止とすべき。	<p>新MICE施設については、「2-2 札幌市のMICE誘致推進における現状と課題」において、課題解決に向けた基本的な考え方の中で必要なものと整理しています。また、「3-5 施設規模の検討」「3-6 施設規模の検討」において、過去の実績やヒアリング調査などにより、施設の望ましい規模について整理しています。</p> <p>なお、札幌市全体の公共施設の整備等については、「札幌市市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針」を踏まえ、総合的、計画的に管理していきます。</p>
7-6 経済波及効果		
25	札幌コンベンションセンターの稼働率の低下が考慮されていない。	<p>札幌コンベンションセンターは主に市内・道内の中小規模の会議・研修や比較的小規模な国際会議が開催されています。また、将来予測を踏まえると、開催できない会議が生じるなどといった機会損失が見込まれます。</p> <p>「7-3 市内他施設の利用状況と棲み分け」のとおり、新MICE施設では、より国際的・全国的な大規模会議や機会損失が見込まれるものの開催を想定していることから、札幌コンベンションセンターへの影響は少ないものと考えています。</p>
26	北海道日本ハムファイターズの動向に伴う札幌ドームの稼働率の低下が考慮されていない。	札幌ドームについては、規模・用途が大きく異なることから、競合しないものと考えています。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
7-6 経済波及効果		
27	新M I C E 施設が市民にとっても価値を見出せるものとなる根拠を明確に提示してほしい。	<p>新M I C E 施設を整備することによる経済波及効果については、生産誘発額が約 100 億円/年、雇用誘発効果が約 24 万人日、税収効果が約 1 億円/年と推計しています。</p> <p>また、周辺の民間投資の誘発や、公園利用者や地域住民等の利便性の向上、避難場所としての位置付けなど、市民生活の質の向上に資する施設となるよう、検討・整備していきます。</p>
その他 (9 件)		
No.	意見の概要	札幌市の考え方
その他		
28	中島公園はカラスが多く、被害も出ている状況であることから、カラス対策を検討してほしい。	<p>公園に集まるカラスの数を増やさないためにも、園内におけるエサやり禁止の啓発やゴミの管理を中心に継続していきます。また、営巣期には、状況に応じたパトロールや巣の撤去などを行うことで、威嚇行動による被害の軽減に努めていきます。</p>
29	中島公園からすすきのまでの駅前通りについて、派手な看板広告などを減らしていく方策を検討してほしい。	<p>札幌市では、「札幌市屋外広告物条例」において、広告物の表示面積等の規制を行っているとともに、「景観法」に基づく届出が必要な建築物の新築等に伴う広告物の掲出について、届出の際に協議・誘導を行っています。</p> <p>新M I C E 施設の整備を契機とした周辺の民間投資の促進が期待されることから、これらの制度等により、適切に規制・誘導を図っていきます。</p>
30	新M I C E 施設利用者が豊平川周辺を楽しめるよう、河川敷の活用を検討してほしい。	<p>豊平川の河川敷には、都市緑地である「豊平川緑地」が整備されています。</p> <p>ご意見については、今後の運営に向けた検討の参考とさせていただきます。</p>
31	数千人規模が一堂に会する場面でもスムーズに利用できるよう、Wifi 環境に配慮してほしい。	<p>新M I C E 施設の設備については、施設利用者が快適に利用できるよう配慮していく必要があると考えています。</p>
32	設備について、リースとするなど、将来の時代のニーズに対応できるものとしてほしい。	
33	冷暖房設備について、柔軟な運用ができるよう配慮してほしい。	

No.	意見の概要	札幌市の考え方
その他		
34	<p>M I C E 推進施策の一つとして、札幌の魅力を後から思い出させるような誘致ツールの検討をしてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、その街の魅力を伝える誘致ツールを提供する都市があるなど、現在、国内他都市において、M I C E の推進に向けた各種ソフト施策を展開しているところです。</p> <p>札幌市においても、「札幌M I C E 総合戦略」に基づき、プロモーションの取組も含め、各種施策を展開しています。</p>
35	<p>来場者の宿泊は、近隣のホテルとの協力体制に配慮した方が良い。</p>	<p>来場者の宿泊に関しては、札幌パークホテルへの宿泊に限定するものではなく、パークホテルを含めた周辺宿泊施設に宿泊することが想定されます。</p>
36	<p>敷地北東の交差点に木下弥太郎の居住跡に建てられた碑があることから、M I C E 施設の整備をきっかけとして、北海道・札幌の郷土を学ぶ仕組みを作ってほしい。</p>	<p>いただいたご意見については、今後の運営等の検討の際に、参考とさせていただきます。</p>

(仮称) 新M I C E施設整備基本計画

<企画・編集・発行>

札幌市経済観光局観光・M I C E推進部観光・M I C E推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL011-211-2376 FAX011-218-5129

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/miceshisetsu.html>



さっぽろ市

01-H02-18-963

30-1-103

SAPPORO

平成 30 年 (2018 年) 5 月発行